

わが子のあゆみ



3年 名人調査隊「消防団」

3年生の「総合的な学習の時間」では、「蘇原名人調査隊」として、地域にある施設や産業などについて学習しています。10月には地域の方々から協力をいただき、4つのコースに分かれて「蘇原名人」の見学に行きました。「消防団コース」では、消防服を用意していただき、その装備や実際に火災現場で使用する道具について実演を交えての説明を聞き、地域での活動を学びました。見学から帰ってくると「楽しかった!」「ひみつがいっぱいわかったよ!」「将来、消防団に入りたい」と嬉しそうに話す子が多くいました。

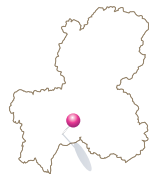
2024.1
No.479
春風号
第75巻4号

1

「やまがたしりつたかどみじょうがっこう」

山県市立高富小学校

住所 〒501-2105
山県市高富1079
TEL 0581-22-1066
児童数 311名



〈地域の自然や風土〉

本校の校区は、山県市の最南部に位置し、古くから岐阜市に通じる交通の要所として、また旧山県郡の経済や文化の中心として発展してきた地域です。豊かな水と緑、地域住民同士の間がりがりも大切に守られています。
高富小学校は、創立150年を迎えた歴史ある学校です。



校舎



ダビンチルーム(高富っ子広場)での学習



4年生が公民館とコラボした写真展「お気に入りの高富」



個人のペースで、じっくり学ぶ



ダビンチルームで、対話しながら学ぶ



育てた花を公民館にプレゼント



仲間と対話しながら学ぶ



高富っ子広場で専門家から学ぶ



毎年4月に行う見守り隊の方との顔合わせ



学校の教育目標

「頼もしい子」の育成

- 考え、伝え、やり抜く子
- ちがいを認め、協働できる子

学校のたからもの①
「学ぶ力」を付けることを
目指した授業

本校の普通教室は、廊下との境の戸をフルオープンにすることが出来ます。広く明るい空間ができ、一人で落ち着いて考えを深める学びや仲間と顔を寄せ合って対話する学びを生み出す環境となっています。

各教科等の学習では、一人一人に「学ぶ力」を付けることを目指しています。3人ト

ク「や「ペア学習」といった仲間と対話しながら、また、一人一人が学習とじっくり向き合いながら学びを深めています。学び合う相手が誰であっても、学ぶ内容が変わっても生きて働く力を、一人一人に付けたいと願っています。

また、学校内のどこにいてもタブレット端末を高速で活用できる環境は、学習内容を自分で選択して学ぶ繰り返し学習や、考えを瞬時に仲間と共有し、対話的に学ぶことに活用しています。

広いスペースにいくつもの丸テーブルを設置した環境を、山県市では「ダビンチルーム」と呼んでいます。子ども達の主体的で対話的な学びを促す学習環境です。本校では、課題別グループでの学習、異学年児童との学習等に活用しています。教室という枠から出ることににより、さらに自由な発想が生まれ、活発に意見が飛び交っています。

学校のたからもの② 全校で行う「ちがいを学ぶ」

学校の教育目標に含まれる「ちがいを認め、協働できる子」の具現に向け、「よいこと見つけ」に全校で取り組んでいます。仲間のがんばりやうれしかったことを見つけた際に、自分とは異なる考え方や気付きにくいことに注目できるようになることを目指しています。学級では、一日の中で見つけたよいことを帰りの会で発表したり、メッセージを書いて教室に掲示したりしています。また、児童会が、よいこと見つけを放送で紹介したり写真とともに掲示したりして、全校に広めています。上学年の児童に認められて誇らしげな表情が見られます。

教員は、子ども達一人一人の努力や優しい心等を認めるとともに、身の回りで見られる多様性を紹介しています。異なる考えを引き出しながら授業を進めることにも努めています。これらを通して、児童が自他の違いを肯定的に受け止めることができるよう継続的に支援をしています。

学校のたからもの③ 地域の支え

「皆さんは地域の宝です。」
子ども達の毎日の登下校を見守ってくださる見守り隊の代表の方による子ども達に向けた言葉です。その言葉の通り、天候を問わず毎日声をかけていただき、大切に育てられています。学校内外の子ども達の豊かな学びや体験の創出に尽力くださる青少年育成協議会や高富公民館の皆様、学校の教育活動の成果や時には困り事にも耳を傾けてくださる自治会連合会の皆様、その他多くの地域の皆様に支えられています。愛情をたっぷり受けて将来を担う子ども達が育つ高富小学校です。

「がらしてこころみやまけちゅうがいのん」

海津市立城山小学校

住所 〒503-0411
海津市南濃町駒野1317番地8
TEL 0584-55-0017
児童数 239名



学校のたからもの①
子ども達が大切に引き継ぐ
「四つ星」



学校の教育目標

心ゆたかに伸びゆく子
なかよく かしくく 元気よく

学校のたからもの②
異学年交流「わくわくタイム」

〈地域の自然や風土〉
海津市は岐阜県の南西に位置し、校区は海津市南濃町の中央にあります。西には養老山脈が、東には津屋川・揖斐川があり、古くからひらけた所で、古墳や貝塚で有名なところです。城山小学校の開校は明治6年で、今年度の6月で150周年を迎えました。学校はもとと駒野城のあったところに建てられており、小高い丘の上に校舎があります。自然豊かな環境の中で学習や生活をしているだけでなく、樹木や柿栽培などについても学習をしています。



校舎



だまってピカピカそうじ

城山小学校には「四つ星」という子ども達
が大切にしている取り組みがあります。
・「自分から大きな声であいさつ」
友達、先生、地域の方に進んで挨拶をする
ことで、した方もされた方も気持ちよく過
すことができます。
・「だまってピカピカそうじ」
一言も話さずそつじに集中することで、み
んなが使っている教室がきれいになり気持
ちよく勉強することができます。
・「自分の手ではぎものそろえ」
下駄箱の靴、トイレのスリッパをそろえる
ことで次に使う人への思いやりの心が育ち
ます。

・「大きな声で発表」
大きな声で発表することで、クラスのみんな
に考えが伝わり、学習が深まります。
6年生がお手本の姿を見せて「4つ星」を
さらに高め、3学期には、下級生へと引継い
ていきます。

城山小学校では、月に1回「わくわくタイム」と呼ばれる縦割り班活動をしています。全校児童を15〜20人程度のグループに分け、6年生の児童を中心に異学年児童と仲良く活動します。鬼ごっこ、ドッチボール、だるまさんがころんだなどの遊びを通して異学年の児童とのきずな作りに取り組んでいます。
この活動を通して、上級生は下級生を思いやる気持ちももてるようになります。下級生は上級生への憧れの気持ちをもつことができます。全校児童の仲が良いことも、宝物の一つになっています。

学校のたからもの③
あたたかい地域の方々の協力

2年生は校外学習で学校の近くの駒野商店街のお店、保育園、企業の方々に協力いただいて町探検をします。何チームかに分かれてお店の見学、お仕事への質問をし、社会勉強をさせていただきました。優しく対応していただけることで自分の町のよさを改めて発

どの活動を通して、地域の方々のご協力、優しさによって得るものが多く、子ども達にとって宝物になる経験をさせていただいています。

学校のたからもの④
城山小学校のボランティア

城山小学校のボランティアの方は、「チーム城山」として児童に関わり様々な側面から支えて頂いています。
登下校ボランティアの方には、毎日の児童の登下校を見届けて頂いています。児童が安全に登下校できるのも登下校ボランティアの方のご協力のおかげです。

ふれあい広場（月に1回行われるボランティアの方を講師とした講座）として、押し花、生け花、ストーンペイントなどの作品作りや、将棋、社交ダンス、ハンドベルの体験を行います。学校では、なかなかできない活動ができるので、児童にも人気です。

読み聞かせは月に1回行い、児童を楽しい物語の中にいざなってくれます。そして、読書が好きな児童の育成に貢献して頂いています。テトラの会（保護者による自主的に協力していただけるグループ）による、水泳の授業の見届けの支援や行事のお手伝い、環境美化の協力など、多岐にわたって快く協力をして頂いています。

たくさんのボランティアの方に協力頂き、児童が心身ともに健康で健やかに育っています。



異学年交流「わくわくタイム」



町探検



カワゲラウォッチング



ふれあい広場(将棋)

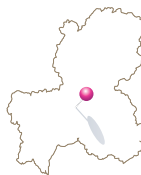


柿の栽培

郡上市立三城小学校

「くじけずいじりこむなむらじりこむがいの」

● 住所 〒501-4106
郡上市美並町白山745番地1
● TEL 0575-79-2023
● 児童数 135名



〈地域の自然や風土〉
三城小学校は、郡上市南部にあり、郡上の南の玄関に位置しています。冬の厳しい冷え込みと雪の多いイメージの郡上にあつて、「郡上のハワイ」と呼ばれるほど、冬でも寒さが厳しくない地域です。美並の地を縦断する清流長良川は、夏にはラフティング、鮎の友釣りの聖地として、多くの人で賑わいます。校名は、かつてこの地に築かれた「三つの城」が清流長良川に雄姿を映し出していたことに由来。昭和45年の学校統合で開校し、今年度で53歳の学校です。



校舎



なかよくなるろう会



学校の教育目標

自分を高める 仲間とみがき合う
たくましく生き抜く力を

学校のたからもの①
なかよし班(縦割り班)活動で
『誰もが来たくなる学校』に

「やさしさと笑顔いっぱい三城小」これは、今年度の児童会スローガンです。三城小学校をやさしさと笑顔あふれる学校にしたいという願いが込められています。なかよし班遊びと掃除を通して、共助や協働など、社会性を身に付けることを大切にして取り組んでいます。

4月には、1年生をお迎えする「なかよくなるろう会」を開催しました。リーダーとなったばかりの6年生が1年生に「今からお話をするお兄さんの方を向くんだよ。」「こうやってやるんだよ。」など、やさしい言葉をかける姿がたくさんありました。オリジナルクイズやゲームで楽しみ、温かい空気でいっぱいの集会になりました。このように、互いに関わるよさを感じられる取組を通して、「誰もが来たくなる学校」を目指しています。

学校のたからもの②

地域とのつながりとよさを学ぶ
『三城タイム』(総合的な学習の時間の取組)

郡上市は、周囲を山々に囲まれ、清流長良

川周辺に人々が暮らし、春は桜、夏は山の緑と長良川の水、秋は紅葉、冬は雪と、変わりゆく季節を肌で感じられる地域です。また、郡上の地を切り拓いた先人達の伝統や文化が受け継がれ、旧七ヶ町村の特色が色濃く残る歴史ある地域でもあります。本校では、総合的な学習の時間を『三城タイム』とし、郡上や美並に関わるテーマを設定して『探求的な学習』を行っています。その取組の一部を紹介します。

4年生「美並のすてきを伝えよう」

郡上、美並、関の3市沿線を走る「長良川鉄道」(通称：レールバス)について知ると、学校近くの「美並刈安駅」でのインタビュを終え、「レールバ」に乗車。目的地の「子宝温泉駅」へ。温泉施設に隣接した駅で、入浴も体験！「V」ハ鉄道利用で割引特典がある！「V」と知り、ビックリ！施設見学後に入浴も体験。「ああ、いい湯だったな！」「明日、長鉄に乗って温泉に入り来よう！」「という声が上がりました。このように、自分たちが暮らす美並について深く知り、体験でよさを実感しようと、学習に取り組んでいます。

5年生「郡上の自然を伝えよう」

自分たちが暮らす「ふるさと郡上」について、よく理解できていないことが明確に。郡上について学ぶ「郡上学」を糸口に、「郡上のよさを伝える」ことをテーマに決定。9月に「宿泊研修」で、美並地域の山間部で「粥川の森の散策」、「清流長良川でのSUP」を体験し、自然に触れ、理解する取組を行いました。今後は、SDGsの視点に立ち、自然を守るための活動に取り組む予定です。

学校のたからもの③

地域の方に支えていただける学校

三城小校区には、「学校のためなら」「子どものためなら」と力を貸していただける方がたくさんいらっしゃいます。学校環境の整備や子どもたちの学びに関わる支援をいただいていることが「学校の大きな宝物」です。保護者の方による奉仕作業をはじめ、漁協の方による「鮎の放流・あまごつかみ体験」、講師によるクラブ指導、祖父母の方によるサツマイモの苗植え、地域の方による学校池周辺の木の剪定など、教職員の力の及ばない多くのことを力強く支えていただいています。そのことが、何物にも代えがたい「とっても大きな宝物」と感じています。今後も、多くの方々に「誰もが来たくなる学校」の願いを理解していただきながら、さらに大きなパワーを注いでいただける学校であり続けたいと思います。



アマゴつかみ体験



4年生長良川鉄道乗車



鮎の放流体験



5年生「粥川の森の散策」



なかよし班遊び



地域の方による木の剪定



サツマイモの苗植え

【あじろいっしわのだちむらがりん】

岐阜市立岩野田中学校



学校の教育目標

夢の実現のために 希望をもって 自ら動く

- 住所 〒502-0006 岐阜市栗野西5丁目8-17番地
- TEL 058-237-2533
- 生徒数 464名



地域の自然や風土

岩野田中学校は、創立七十六年目になります。岐阜市北部、山県市と隣接する地域に本校があります。校区の中央を南北に鳥羽川が流れています。校名の「岩野田」は校区内の地区名「岩崎」、「栗野」、「三田洞」から文字ずつ取って付けられています。校地のすぐ南には、標高二三二m、崖を引いたような優美な姿を見せる「眉山」が岩野田地区のシンボルとしてあります。山頂には、岐阜市指定史跡でもある前方後円墳の鎧塚古墳があり、眉山周辺には複数の古墳が存在しています。その「眉山」は、本校PTA広報誌のタイトルにもなっています。学校教育目標「夢の実現のために希望をもって自ら動く」を毎日意識しながら、仲間とともに笑顔あふれる楽しい学校生活を送れるよう全校生徒と職員で頑張っています。

学校のたからもの①

「笑顔あふれる学校生活」

本校の生徒は、仲間同士たいへん仲がよく、男女の隔たりなく、学級全体でお互いを認め励まし合いながら活動する様子が見られます。保健体育の授業では、昨年度より男女共修を実施しており、長距離走の単元では、男女混合での同時スタートにより、学級の中で応援合戦のような大きな励まし合いが沸き起こっています。理科の授業では、頭を突き合わせて実験に真剣に向き合い班交流を行っています。このように全ての学習において周りの仲間と積極的に関わる授業形態を取り入れる

学校のたからもの②

「笑顔あふれる生徒会」

岩野田中学校の生徒会は、「とにかく明るい生徒会」です。体育祭では本番前の準備運動の時、動画サイトで流行った「アキレスケンタウルス体操」を生徒会役員が朝礼台の上でリードして始めたところ、全校生徒が笑顔いっぱい一緒に運動し始めました。楽しいアイデアを取り入れる柔らかい頭の生徒会です。もう一つは、体育祭終了時、紅白に分かれた団で解散式を行い、円陣を組んで仲間と楽しめた充実感を確かめ合うように大きな声を上げました。すると、どこからともなく「全校で輪になる」と声がかかり、各団のリーダーたちが輪の中心となり、その周りを全校生徒がグランドいっぱい大きな輪でつながりました。学年学級隔たりなく、隣にいる子と肩を組み、最後はみんなで拳を空に向かって突き上げ、大きな声で掛け声をかけてフィナーレとしました。全校が一つになれた素晴らしい光景でした。また朝の全校放送では、「笑いヨ



校舎



学校生活 長距離走授業風景



学校生活 理科実験風景



生徒会 アキレスケンタウルス体操



生徒会 全校円陣



PTA IWANODA Smile Day チラン



PTA IWANODA Smile Day



ガ」を紹介し、全校みんなが笑顔で生活できるように自ら率先して広めていました。このように生徒会のリーダーシップが岩野田中学校を笑顔いっぱいの学校にしています。これは、市の生徒会サミットでも「いじめ防止の方策」として紹介され、他校生徒会に注目されていました。

学校のたからもの③

「笑顔あふれるPTA」

岩野田中PTAでは、「保護者が笑顔で楽しく活動することが、子ども達にも影響する」と考え、親子で一緒に楽しめるような活動を

考えました。今年度のメインイベントを紹介し

★「IWANODA Smile Day」

令和5年10月21日、岩野田中学校ではPTA主催イベントを今年度初めて開催しました。「みんなが笑顔いっぱいになれるように」と、本校PTAと県立岐阜総合学園高校のイベント企画部がコラボして、たくさんの催しが準備されました。

当日グランドでは、7台のキッチンカーにより食事などが提供されました。体育館では吹奏楽やダンス、高校の吟詠剣詩舞部、和太鼓部の迫力あるステージ発表。フロア後部では、家庭教育学級としてアクセサリ作りを行い、たくさん生徒や保護者の方々が立ち寄りました。このイベントを踏まえて、今後のPTA活動について役員の意見です。

【会長】

今年度の学校経営のキーワード「笑顔」と昨年度より引き続き実践テーマ「語り合うコミュニケーション、楽しもう子どもと共に」をベースに、笑顔がひとつでも増える楽しい活動を目指してきました。これからは、人と人との温かい繋がりを大切に、本校PTAが育んできた想いを継承しながらも、これまでのやり方に捉われないこと新しい発想を積極的に取り入れ、時代の変化に柔軟に対応できるPTAでありたいと考えます。

私たちは、学校、保護者、地域が一体となって子どもたちの笑顔をつくり出していくことが、学校教育目標「夢の実現のために希望をもって自ら動く」を実現につながるかと信じて様々な活動に挑戦し続けています。

11月号を読んで

「子育ては親育ち」のコラムを拝読しました。その通りの言葉だと思います。家庭が、子どもの安心して過ごせる場所になるように会話を多くするよう心がけていますが、子どもも大きくなり、以前より減った気がします。それでも、子どもが安らげる環境を作りたいと思います。(Mさん)

子どもに関して、毎年様々な悩みが出てきます。学校、家庭での生活面、学習面、人間関係、親子関係など、考えることが沢山あります。いろいろ迷った時、この「わが子のあゆみ」を拝見させていただいて、参考になったり解決する時もあります。本当に助かっています。これからも楽しみにしています。(Iさん)

家庭でできるアクティブラーニングにすごく興味を持ち、前編も読みました。他にも読んでいて心にしみのお話がたくさんあり、ゆっくり読ませて頂いています。(Sさん)

秋らしい鮭のお料理が載っていたので、子どもと一緒に料理をしてみます。(Tさん)

お試しクッキングの「秋鮭のちゃんちゃん焼き風」を作りました。タジン鍋で、たまねぎ・しめじたっぷり、バターで香り付けをして子どもも「おいしい!!」と言っていました。食は大事ですね。体力をつけて、これからも子どもたちを応援していきたいです。(Oさん)

学校紹介や部活動紹介をよく読んでいます。いろんな取り組みがあり参考になります。(Mさん)

保健室ノートを読ませていただいて、具体的に子どもと取り組めそうな歯磨き習慣やスマホ等の使用のポイントが紹介されていて参考になりました。今までは、寝る前に歯磨きをするという曖昧な時間設定でしたが、歯を磨く時間を決めることで、寝る時間も習慣づけられればいいなと思いました。(Tさん)

毎号楽しみにしています。PTAの役員さんや先生方の話が子育てのヒントになるので、参考にさせてもらっています。(Kさん)

家庭でできるアクティブ・ラーニング後編も大変勉強になりました。私は、今まで子どもに問題解決につながる考え方を鍛えられていたと気付きました。それでは子どもが考えるチャンスをとってしまうので、これからは「どうしたらいいと思う?」と問われたら「あなたはどうしたらいいと思う?」と逆に問いかけ考える機会を増やし、子どもと一緒に脳トレしようと思いました。(Sさん)

鮭のホイル焼きを作ってみて家族に好評でした。いろいろな学校のことが載っていて面白いです。(Nさん)

なぞなぞを解くのが楽しい。「切っても切っても細くならないけど、遊ぶ前に「切る」ものなあに? 答え、トランプ」(Hさん)

もくじ わが子のあゆみ 2024.1 No.479 春風号

- 表紙 各務原市立蘇原第一小学校
- 1 学校のたからもの
山県市立高富小学校/海津市立城山小学校
郡上市立三城小学校/岐阜市立岩野田中学校
- 11 特集 学びの多様化学校・西濃学園
「生徒の将来を見据えた指導・支援を大切にしている学校」
学校法人西濃学園 学園長 加納 博明
- 17 みんなで家庭教育!
岐阜県環境生活部環境生活政策課
- 18 先生!ありがとうございます!
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
- 19 「多様性尊重の教育②」
みんな、いっしょに 安田 和夫
- 21 保健室ノート 鈴木 純子
- 23 私の先生⑦ 金田 亘太
- 25 わが家の宝物 山田 勲太郎
- 26 リレーエッセイ⑦ 大橋 采佳
- 27 子育て半生記 土方 隆行
- 29 楽しい読み聞かせ⑥ 大垣市立牧田小学校PTA
- 31 親の背中② 市岡 幸一・戸田 一文
- 33 私が出会った1冊の本【続62】
安江 夕希・狩谷 信孝
- 35 子の思い 渡邊 紗菜・曾我 雄大・三室 穂乃佳
親の願い 鳥井 智世・馬淵 有加里
教育の窓 水野 浩庫・長尾 崇
- 40 話そう!語ろう!わが家の約束 熊倉 周子・匿名
- 41 親子ではてな
- 42 お試しクッキング
岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会
- 43 ふるさとの伝承 大垣市立赤坂小学校
- 45 きらり!キッズ! 郡上市立大和南小学校
- 47 夢中!熱中!我らが部活 本巣市立糸貫中学校
- 49 私たちのPTA 七宗町立神淵中学校PTA

SDGsで未来を照らす

社会課題の解決に向けたSDGs取組

地球環境との共生

- 7 再生可能エネルギー
- 12 つくばない、つかう賢く
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう

脱炭素社会への移行や自然資本・生物多様性の保全・回復に資する商品・サービス、気候変動への適応策の提供を通じて、自然と調和した経済・社会を目指します。

革新的テクノロジー

- 3 持続可能な消費と生産
- 9 産業と雇用創出

自動運転や社会のIoT化に伴うサイバーリスクの発現を未然に防止する商品・サービスの開発や新しい産業創出に伴うリスクに対するソリューションを提供します。

強靱性・回復力

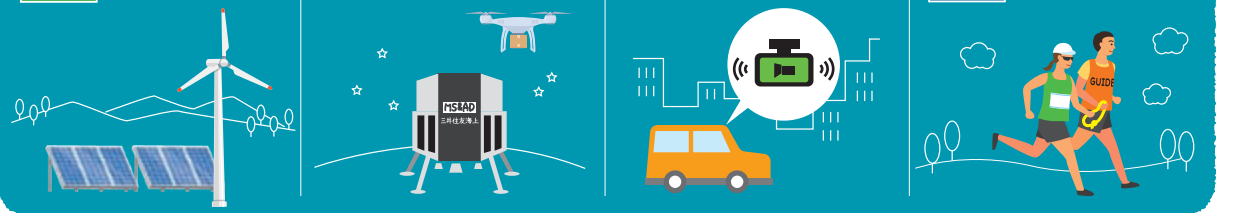
- 9 産業と雇用創出
- 11 持続可能な都市とコミュニティ
- 13 気候変動に具体的な対策を

社会インフラの老朽化や災害に強いまちづくりに対して、データやAIを活用した防災・減災の提案、早期復興対策など新たな価値を提供します。

包摂的社会

- 3 持続可能な消費と生産
- 5 ジェンダー平等を推進する
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 12 つくばない、つかう賢く
- 16 平和と公正な社会を築こう

誰もがアクセスしやすい商品・サービスの提供や、バリューチェーンまで含めた人権課題への対応、ダイバーシティ&インクルージョンの推進などに取り組みます。



西濃学園のあゆみ

西濃学園は学校法人として2008年に西濃学園中学校をつくりました。その前は、大垣市内を中心に「学校に行きたくてもいけない子どもたちの支援」を目的としたボランティア団体で活動していました。その後、フリースクール「坂内新生塾」をつくり、さらにNPO法人西濃学園となって、今の学校法人西濃学園に至っています。

現在、学校法人西濃学園は文科省から指定された「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校として西濃学園中学校と西濃学園高等学校の2校あります。両校とも揖斐川町内にある廃校となった校舎（中学校は旧藤橋小中学校、高等学校は旧久瀬小学校）を活用しています。特に高等学校は令和4年4月から「全日制の普通科」の学校としてスタートし、大学や専門学校への進学や就職を目指しています。

西濃学園が大切にしている考え方

さて、「生徒の将来を見据えた指導・支援を大切にしている学校」をめざしている西濃学園。この大切にしている考え方は、不登校だった生徒にとってとても重要です。なぜなら、そのことによって不登校で悩んだ生徒が自分の将来を想像できるからです。また、不登校やその傾向を示すお子さんをもつ保護者の方は、自分の子が将来社会で通用する人になって欲しいと願うのは当然のことであり、実際このことは大きな課題でもあると思います。

このような将来の目標とする姿について文科省は「社会的自立」という言葉で令和元年10月25日の通知において明確に示しました。当学園の理事長北浦茂は、以前からこの「社会的自立」について機会あるたびに「自分の力で飯が食える人になることが大切だ」と生徒はもちろん、保護者にも、来校者にも分かりやすく伝えていきます。

西濃学園の特色

では、実際の西濃学園はどんな特色があるのでしょうか。将来、社会に出て通用する人づくりをめざす西濃学園において、特色ある指導・支援はいくつかありますが、その中から特に重点をおいているものを紹介します。それは「臨床の知

生徒の将来を見据えた指導・ 支援を大切にしている学校

学校法人西濃学園 学園長 加納 博明



「先生と生徒、先輩と自分たちの距離がとても近いことかな。」「ゆったりとした学習のペースだから、授業がよく分かります。」これは、先日西濃学園高等学校を訪問された岐阜市内の中学校の先生方と高校1年生との懇談会の中で出てきた生徒の一言です。先生方からの質問は「Q:この学園の魅力は？言い換えると今、中3で悩んでいる生徒にこの学園のことをどう伝えますか？」というものでした。では、不登校だった生徒が通う西濃学園とは、どんな学校でしょう。

公私の壁はない

不登校のお子さんの自立を考える時、公私の壁は取り払う必要があると西濃学園では考えています。西濃学園は令和5年9月1日に大垣市（大垣市教育委員会）と連携協定を結びました。西濃学園が持つ不登校生への指導・支援のノウハウを提供することで大垣市内の小中学生が不登校になる前に自立できるとか、学級の児童生徒への対応が改善されて子どもたちが落ち着いてきたといったことを期待しています。このような意味でも不登校のお子さんへの指導・支援を社会全体で考え、取り組んでいくことが大切であると考えています。

特に西濃学園では、生徒が自立していくために必要な「10のスキル」を洗い出して、そのスキルを生徒が身に付けられるよう研究しています。そのため、卒業生の追跡調査をおこない、特に大切な「スキル」は何なのか、そして今、西濃学園にいる生徒に対してどのようにしたらスキルを身に付けさせることができるのかを考えています。

このことについては、大垣市とも連携して進めていく予定です。



【運動会】



【和菓子作り】



【文化祭】

見を活用した指導・支援を大切にしている」ことです。分かりやすくいうと西濃学園にはスクールカウンセラー（以下SC）が常勤3名、非常勤1名がいます。このSCの仕事の一つに「生徒のカウンセリング」があり、全ての生徒が毎週1回カウンセリングを受けています。このカウンセリングは生徒にとってとても大きな安心感となり、自立への精神的な基礎づくりとなっています。また、SCは学校組織の中で「臨床部」を構成しており、計画的な職員研修を通して西濃学園教職員のカウンセリングマインドの向上も図っています。さらに、SCが複数で毎週1回授業もしています。授業は、中学校と高等学校それぞれで週1回の授業で「ソーシャル・スキル・トレーニング」を行っています。自己紹介の仕方や人とのコミュニケーションの取り方などを楽しくゲームのようにして学んでいます。

生徒が劇的に成長する「夏山登山」

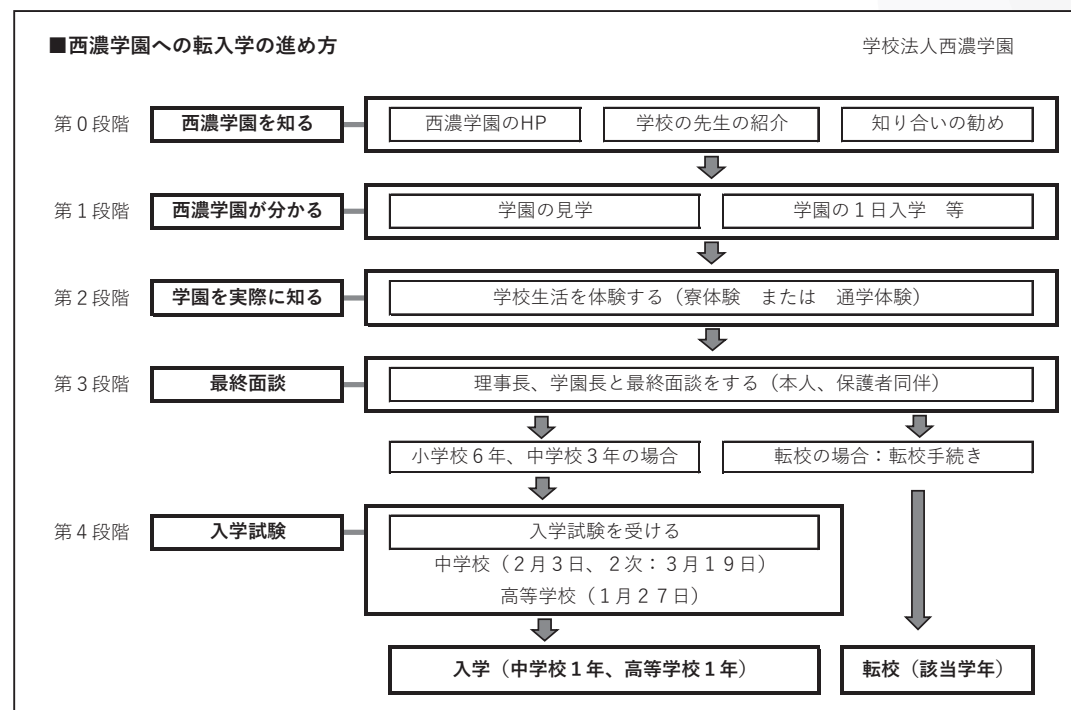
今回は、西濃学園の活動を紹介します。最も大きな行事は、毎年「夏山登山」を実施しています。これは、奥穂高や槍ヶ岳といった北アルプスの3000m級の山に登る本格的な登山です。生徒は事前に設定された体力別のコースを選択して、山に向かいます。頂上付近では生命の危険に晒される場所を自力で登らなくてはなりません。でも、生徒は仲間と声を掛け合いながら、先生のサポートを受けながら自分自身の限界への挑戦をしています。今年も3コースに分けて北アルプスをめざしました。そして、頂上付近の山小屋に宿泊しました。その山小屋から見る満天の星空や森林限界を越えたところに自生する植物は日頃見ることができないものばかりです。登山を終えた生徒は学園へ戻って来てからも規則正しい生活を維持できるようになります。そして、自立した生活を送ることができる姿へと成長します。中には規則正しい寮生活を送ることができるようになったことから、さらに早朝のボランティア清掃を自主的に取り組む生徒も出てきます。





西濃学園へ転入学するには

現在、中高合わせて83名の生徒が在籍しています。その約8割の生徒が寮生活を送っています。そこで、西濃学園では中学校や高等学校へ入学や転入する際、寮生活となることも踏まえて、下図のような手順で入学や転入の手続きを進めています。



家庭で子どもに教えたことや、育みたい力など、家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育！

わが子のあゆみは、私のあゆみ

仕事に追われる生活の中で、自分の子育てをみつめる時間をつくることは重要です。わが子の小さながんばりや健やかな成長に気づくことができたなら、どんなに幸せなことでしょう。そして、わが子の小さながんばりや健やかな成長を自分自身のがんばりや成長として捉えられようになれたら、どんなに楽しいことでしょうか。

仕事の距離があります。一足一足の間合いが近すぎると、いつも顰め顔（つばぜりあい）で相手から打たれはしません。自分の技も届かない。お互いのよい技を引き出すことも受け止めることも、感じることもできません。わが子が成長する過程の中で、お互いの間合い（距離）は大切です。

間合いをとる

ある子育て講演会の中で参加者がほつり。「子育ての一番の後悔は、『あんなつまらないことと怒らなければよかった』と思うことの数々です。」と。わが子と保護者の距離は、とても近いものです。毎日近い距離にすぎると、お互いのよさが見えなくなってしまうこともあります。剣道では、一足一刀（いつそくいっとう）の間合いというお互いの技を引き出すた

気持ちを伝え合う場をもつ

初めて開催されたある市PTA A連合会の「家庭教育委員会交流会」。役員の方が始めに「今年度は、県PTA連合会の役員となり、いろいろな方々とお会い、交流できることが楽しい！」と話されました。続いて会長さんが「子ども・親の迷子を見逃さないように活動したい！」と話されました。その後、5つのグループに分かれた交流会では、初めて会った方々とは思え

ないほど話に花が咲きました。委員の皆さんは、規模や実態の異なるそれぞれのPTA組織や家庭教育の取組に大変興味を持たれており、委員の一人として「子どもや親が、迷わないようにしたい」という気持ちが伝わってきました。コロナ禍が落ち着きをみせる中で、顔と顔を合わせて子育てや家庭教育について話す機会と場は大切です。

親子一緒に学習する

ある中学校の家庭教育学級では、「SDGsの地方創生ゲーム」と題し、「親子で12年後の自分たちのまちを創る！」をテーマに学習をしました。地方創生の指標は「子育て」「経済」「環境」「暮らし」の4つです。各親子がプレーヤー（例えば、まちの電気屋さん、行政職員）となり、他のプレーヤーと対話をしながら、まち全体の指標が向上するように取り組みました。親子が、お互いのものの見方・感じ方・考え方を肌身で感じ学び合えることは、すてきなことです。体

育館のあちらこちらで、対話が途切れることなく続きました。学習後の保護者の感想です。「対話ができないと成り立たないゲームで、親としてもとても勉強になりました。わが子と一緒に何かを達成するという機会も経験になりました。」

国が行った調査では、約7割の保護者が「子育てに不安や悩みを持つている」と回答しています。誰しも、子育てについて悩みや不安はあります。大事なことは孤立しない・させないということだと考えます。一緒に子育てや家庭教育について、話せる仲間の存在は大切です。今年も、県内の様々なところで子育てや家庭教育に関わる事業が開催されます。わが子と一緒に歩みながら、ぜひとも自身のあゆみを楽しんでください。

飛騨県事務所
家庭教育推進専門職 水口悟

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

先生方の『働き方改革』の中、部活動の在り方も変化してきました。20代の社会人の娘を持つ身としては、当たり前前の改革であり、先生方には身体を休め、プライベートも充実して欲しいと心から思っています。

息子の部活は、休日も早朝から練習試合などで、ほとんど休みがありませんでした。今年の春そんな部活に、未経験でルールも定かではない、20代の先生が顧問となりました。体調を崩さないか、途中で嫌になってしまわないか、と勝手な心配をしていました。

それから半年。真夏の暑い日も子ども達に寄り添い、時には熱い言葉を掛けてくれ、一緒に乗り越えてくれました。

未経験の部活の顧問を引き受けるには、覚悟と一歩踏み出す勇氣が必要だったと思います。先生の頑張りや、子ども達が、壁にぶつかった時、挫けそうになった時、社会に出た時、様々な場面で気付かされる事がたくさんあると信じています。

今はまだ、何も分からない、生意気な中学生ですが、どうぞ、これからも宜しくお願致します！

（精華中学校野球部先生応援団より）

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度初め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■3月号のお知らせ（予告）

特集=日本代表を育成する過程や学校の支援/表紙=蛭川中/学校のたからもの=萩原小・西小（瑞穂）・春日小・瑞浪中/わが家の宝物=城西小/リレーエッセイ/みんなで家庭教育/みんな、いっしょに/保健室/トート足近小/私の先生=池辺小/子育て半生記=中有知小/楽しい読み聞かせ=南学園/親の背中=蜂屋小・串原中/1冊の本=久々野小・岐北中/わが家の約束=川並小・南ヶ丘中/子の思い=那加第二小・富岡小・南中（大垣）/親の願い=上之保小・東長良中/教育の窓=東白川小・南小（中津川）/先生！ありがとう！=小坂中/お試しくッキング/ふるさとの伝承=稲羽東小/きらり！キッズ！=養基小/夢中！熱中！我が部活=南姫中/私たちのPTA=生津小

幽玄の世界観を伝えてほしい

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

長良川鵜飼を楽しむ

9月27日、久しぶりに長良川鵜飼を楽しむことができました。今回、一緒にさせていただいたのは、岐阜市内にある岐阜盲学校に通う高等部生徒7名と校長先生をはじめとする先生方です。

今回の企画を主催されたのは、長良川リバースケープ有限責任事業組合のみなさんです。視覚に障害のある方たちに、鵜飼の魅力を感じてもらいたいということでした。

不安定な足場を一つ一つ確認しながらの乗船体験で、観覧船に乗り込むまでは緊張の様子もありましたが、仲間や先生方と共に歓談しているうちに、わくわく感が高まっていったようでした。

船が上流に上っていくと、風が頬をなでていきます。そして、長良橋近くの車の往来から離れていくのが聞こえてくる音の変化からわかります。実は、私も、岐阜盲学校の皆さんが、どのような感覚

で、鵜飼を楽しむのだろうか目を閉じて耳を澄ませてみて、初めてわかることでした。

いよいよ、鵜舟が近づいてきました。生徒の皆さんは、鵜の鳴き声や羽をばたつかせる音、そして、川に潜りこんでいく音に集中して聞き入っています。また、鵜匠のかけ声や鵜舟の側面をたたく音などを聞いたたり、かがり火から聞こえてくる薪がバチバチと燃える音や炎が近づき揺れる様子を、温かさの変化から感じたりしているようです。

ご一緒させていただいた私たちも、このような楽しみ方があるということがわかり、とても新鮮な発見でした。鵜飼を楽しんだ後のインタビューに応じた生徒の皆さんからは、「鵜匠の声や鵜の鳴き声が聞こえて、音だけで楽しめることがわかりました。」「川のおい風を感じました。」など、鵜飼の楽しみ方がそれぞれにあることを語ってくれていました。

伝えてほしい幽玄の世界観

主催者代表宮部賢二さんから、乗船してくれた視覚に障がいのある盲学校の皆さんに願っていることをお話しされました。お話の要旨は次のようなものでした。

長良川鵜飼は美濃国（現在の岐阜県）において、1300年以上の歴史を持つといわれており、当時は、電気も車もない中で、現代を生きる私たちとは全く違う感覚で鵜飼を楽しんでいたと思います。月明りとかがり火、鵜匠のかけ声と鵜の鳴き声、まさに幽玄の世界が広がっていたと思われます。もしも、今も、当時の鵜飼の世界観が引き継がれているとすれば、耳から入っていく様々な音や、肌で感じる感覚などであり、皆さんが今日の体験で感じられたことそのものだったと思います。私たちは、長良川鵜飼をより多くの方に楽しんでもらいたいという願いを持っていますが、でき

る限り、古来より伝わる「幽玄の世界」を少しでも乗船いただく方たちにも体感していただき、長良川鵜飼の魅力を広げていきたいと願っています。

そこで、ぜひ、みなさんにお願いがあります。みなさんが、今日体験いただいたように、視覚以外のあらゆる感覚を研ぎ澄ませて感じた「幽玄の世界」を乗船される方々に、ナビゲート（案内）してほしいと期待しているのです。

特性を強みに代える

この宮部さんの力強いメッセージを聞いて、その壮大な計画に感嘆するとともに、盲学校の生徒の皆さんを招かれた理由がよくわかりました。

こうした企画は、すでに国内外で様々な形で展開されていることを調べてみてわかりました。例えば、奈良県で2019年、視覚障害者と健常者が参加する「五感で楽しむ日本の歴史」と題する企

画が報告されています。視覚だけに頼らず、手や足の感触、耳や鼻などの感覚を研ぎ澄ませて、古代の歴史を味わおうとの内容です。例えば、博物館において、出土品の模型を手に取り、触感だけで、形状を探ったり、複雑な文様を判別したり、その感想を述べ合う試みです。

しかし、今回の宮部さんたちの企画からは、視覚に障がいのある方たちの特性を強みとして位置づけ、伝統文化である長良川鵜飼にも現存する「幽玄の世界」の魅力ナビゲーターとして発信してほしいという強い願いを感じます。そして、それは、共生社会への知恵と地域社会の向き合い方への提言でもあると感じました。

私は、今後の展開として、視覚に障がいのある方以外にも、聴覚に障がいのある方々との協働についてもその可能性を検討させているということ、急遽、乗船させていただくことになりました。久しぶりの長良川鵜飼でした

が、本当に新鮮な体験となりました。

視覚に障がいのある方々の社会参加

現在私が勤めている大学にも、視覚に障がいのある学生が、それぞれの「自立と社会参加」を目指して、がんばっています。しかし、県内での勤務を望んでも、就職先は見つかりにくく、ハードルが高いのです。その背景には、複数の要因があるとは思いますが、まずは、視覚に障がいのある人たちの「毎日」や「特性」について、十分理解が得られていないということがあげられるでしょう。

本学の教育学部の学生に聞いても、小中学校時代に視覚に障がいのある方たちとかかわった経験はほとんどありません。小さいころに、級友として、あるいは、交流活動のパートナーとして関わったことがあればと思います。先日、本学に、鵜飼でもご一

緒した岐阜盲学校の校長先生が進路主事の先生と共に来校されました。その目的は、「ヘルスキーパー（企業内理療師）」として、盲学校の卒業生を採用してもらえようという検討してほしいというものです。ヘルスキーパーとは、理療（あんま・マッサージ・指圧、鍼灸など）の国家資格を取得した人が、企業等に雇用されその従業員等を対象にして施術等を行う仕事です。業務中に生じた疲労やその他の症状を取り除き、業務の能率向上と従業員の健康増進に役立てる事を目的としています。都市圏ではすでに、ヘルスキーパーが多く企業で採用され、実績を上げているようですが、岐阜県ではまだまだのようです。一度、話を聞いてみて、もよいという企業、団体があれば、是非とも、岐阜盲学校の理療科の先生にご連絡をとってみてくださいます。「共に生きる」をみんなで進めていきましょう。



子どもをそっと後押しして

恵那市立長島小学校
養護教諭
鈴木 純子



本校は、恵那の市街地に位置し、今年、創立150周年を迎える伝統ある小学校です。全校児童は436名。とても人懐っこくて素直で、元気が良く、児童会を中心に挨拶を率先してできるすてきな子ども達です。また、掃除に力を入れていて、その姿から、古い校舎を大切に使うという気持ち伝わってきます。私自身、今年度、久しぶりの小学校勤務となり、毎日かわいい子ども達に癒されています。

児童には、体の症状や家での生活の様子などを詳しく聞き取るようにしていますが、その中でも就寝時間と朝ごはんの有無は大切にしている項目です。一学期に、あることがきっかけで保健室を毎日のぞくようになった低学年の児童がおり、毎日様々な話をしてくれます。その児童は、家庭の都合もあり、朝ごはんを食べてこないことが、もうすでに習慣になっていました。そこで、朝ごはんは、頭にも体にも心にも大事な一日のエネルギー源だよと伝え、少しずつでも食べてもらえるにはどうしたら良いか、一緒に考えました。「先生、今日は朝ごはん食べてきたよ。」「すごい。何を食べてきたの?」「お茶漬け!」またある日は、「今日はお兄ちゃんが冷凍庫のごはんを食べちゃったから、チョコパン一個しか食べれなかった。」と言うので、「いいよいいよ。毎日続けることが大事やだね。」この児童は、自分で朝ごはんを考え、自分で用意して、少しずつですが、食べてくるようになって

長島小へ勤務し始めて強く感心したことは、子ども達が、休み時間に運動場へ出て、とても元気に遊んでいることです。天気の良い日は、広い運動場が、子ども達でいっぱいになります。学級遊びや縦割り遊びなどが予め計画されていないなくても、休み時間になると、我先にと運動場へ出ていきます。どうしてもこんなたくさん運動場へ出て遊べるのだろうと思いい、観察しているうちに理由が分かりました。担任の先生が率先して運動場へ出て遊んでいるのです。休み時間の終わりを告げる音楽が鳴ると、子ども達と同じように、いっぱい汗をかいた先生も、走って校舎内へ戻ってきて、すぐに三時間目が始まります。本校は、担任の約半数が二十

りました。朝ごはんを食べることが当たり前になると、それに伴い、学校生活の中での意欲が増し、就寝時間や起床時間、排便習慣の改善など、良い生活リズムにもつながると考え、指導を続けています。

我が家には、大学生と高校生の三人の子どもがいます。この間、子どもがしみじみと「箸を正しく持てるようにしつけてくれたのは、今になって本当に良かったと思う。」と言いました。友達が、今ではなかなか直せないと言って苦労しているという話を聞き、習慣は一朝一夕で身に付くものではないとつくづく感じました。

子ども達への指導はもちろんですが、大切にしたい生活習慣について保護者の皆さんと共通理解し、子どもの健康づくりをそっと後押ししていきたいと考えています。

代という若い職員構成であり、子ども達との距離が近く、学校に活気があります。また、校長先生をリーダーとした「チーム長島」で職員一丸となって頑張っていることも子ども達にいい影響を与えていると思います。

さて、恵那市の養護教諭部会では、昭和四十二年から子ども達の体格や疾病異常等、恵那市学校保健統計として冊子にして子ども達の健康について課題を明らかにしてきました。また、平成二十年度からは、恵那市の全小中学校で生活調査を実施しており、その時々々の傾向をつかみ、指導に役立てるようにしています。特に、生活習慣と歯科保健に重点を置いて研究を進めています。

保健室へ体調不良を訴えて来室する



創立150周年記念のバルーンリリース



校舎

夢を捨てないで

飛騨市立古川西小学校

教諭 金田 巨太

「夢を捨てないで」

作者 北村 弘子

胸の中にしまつてある 夢やあこがれは
 くずかごに捨ててはいけない
 時々紙くずみたいに クシャクシャとまるめて
 くずかごにポイっと 捨てたくなるけれど
 うっかりしていると ごみの日に収集車に もつていかれてしまう
 だから簡単に 夢を捨ててはいけない
 夢が果てしなく遠くても 心を燃やしていたならば
 ああ あの時に 夢を捨てなくてよかったと
 思える日がいつか くるかもしれない

右の詩は、小学校六年生の朝の会の時に、毎日クラス全員で読んでいた詩です。

この原稿依頼を受けた時に、真っ先に思い出したのがこの詩です。当時担任だった山崎浩巳先生が、学級開きの際に、この詩を提示し、担任としての思いや願いを語られました。それ以来毎日、この詩を全員で読んで、一日がスタートしました。

学級開きて、山崎先生は、「悲しい思いをする仲間をつくらない。自分から声を出し、仲間と汗して取り組む。失敗をおそれず、夢の実現に挑戦する。」というような内容のお話をされました。普段でも、仲間の大切さについて、熱く語ってみえました。先生は何か私たちに考えさせたいことがあると、学級会を開き、「どう思う？」と投げかけられ、それを自分達で考えさせました。先

生の助言もあり、学級会で最終的に決まることは、必ず「仲間のことを考えていたかどうか」という結論になっていたと思います。

長縄大会の取組では、大会近くになったある昼休みに、最高記録を出しました。しかし、それはクラス全員で出した結果ではありませんでした。そこで、この記録を公式の記録として残すのか、残さないのかという学級会を開きました。そこで出た結論は、「全員で出した記録ではない。これは非公式の記録だ。学級の仲間全員で跳んだ記録を残そう。本番、学級の仲間全員で最高記録を目指そう。」というものでした。学級内で何か問題や考えたいことが起こる度に、学級会を開き、仲間のことを考えることを教えてくださいました。今の私が、児童生徒に投げかけていることの一つに、「仲間の大切さ」があります。山崎先生から教えていただいたことが、今の学級経営の礎になっています。

山崎先生は、「夢を捨てないで」の詩を学級の仲間と毎日読むことで、学級への所属感を感じさせてくださったのだと思います。さらに、この詩を活用して、どんな自分になりたいのかを常に意識させてくださいました。卒業間近には、一人一人に「どんな人になりたいか」と問われ、これからの生き方について考えるきっかけもいただきました。私はその時、「希望を与える人になりたい」と答えていました。山崎先生が私たちに夢や希望をもつことの大切さを教えてくださいくださったように、私も誰かに「夢や希望を与えたい」と卒業の時、強く思ったことを覚えています。

その後、私は父の影響もあり、バスケットボールを教えたいという夢をもちました。教師になることでバスケットボールに携われるのではないかと思いい、教師の道を選びました。しかし、大卒受験に失敗しました。教師の夢もこれで終わりか、とあきらめかけた時、「夢を捨てないで」の詩が、私の頭に浮かんできました。絶対に夢をあきらめたくはないと思いい、再びチャレンジする道を選んだことが、現在の私につながっています。

教師になって、数多くの児童生徒を担任し、子ども達には、仲間を大切にしたいというこ

とや、どんな自分になって、どんな人生を歩んでいきたいのかということ、子ども一人ひとりと向き合いながら、一緒に考えてきたつもりです。そして今後も、私に関わってくださった様々な方の教えをもとに、仲間の大切さを伝えることを核にしながら、夢をもつことの素晴らしさを多くの子ども達に伝えていける教師であり続けたいと思いいます。

わが家の宝物

「わが家の宝物」とは、なかなか難しいお題。私と妻と娘三人の五人家族。自分一人の意見で「わが家の」宝物を決めてはダメだろうと思って夕食中の話題にしてみた。妻「ギョーザ」。一家全員ギョーザが好物。わが家では野菜多め生姜多めで作る。榎茸を入れるのも特徴だ。娘も大量に食べるので一度に百五十個くらい作る。家族みんなで包む。ビール(?)も美味しい。確かにこれは宝と言ってもよい。

娘「旅行。海。プール」。確かに、家族でどこかへ出掛けて遊んでくるのは楽しい。コロナ禍は旅行中も感染対策で少し窮屈だったけど、またどこかへ行きたいね。そういえば坂祝のプールが無くなっちゃっただけでなく、小牧のプールも無くなっちゃった。宝物が減るのは残念だねえ。

多分、「宝物」って言っても、蓬莱の玉の枝とか仏の御石の鉢とかいう「もの」ではないだろう。わが家にはそういう文字通りのお宝はない。先祖から伝わる秘宝みたいなものがあればそれで決定なんだけど、無いんだよなあ。おじいちゃんの遺品にラバウル出征時の式典用軍力があるけど、古いと言っても昭和時代。お宝というにはまだ若い。

それに、わが家族はあんまり物にこだわりがないみたいだ。ギョーザそのものよりもギョーザ制作における体験などの「こと」が宝になっているんだと思う。この「我が家の宝物」探しの夕飯だって宝物の一つなんだろう。

そのうち子供も巣立つから、ただ家族がいるだけでそれが宝物ってなるのかもねえ。



リレ エッセイ 27

各務原市立那加第一小学校 P T A

大橋 采佳



「心の栄養」

3人の子育てをしながら「自分に素直な子どもを増やす」目標を掲げアロマベビーマッサージ講師として活動させてもらっています。

なぜ、アロマベビーマッサージ講師なのか。現在小学校1年生の長女を産んだ際、元々保育施設で働いていたことから周りに「子育ても大丈夫だろう」と言われ、頼りたくても頼れない状況でした。しかし保育職とは言え、子育ては初めて。慣れない授乳に大量の吐き戻しの繰り返し。昼夜関係のない生活に「頼れない」という孤独、早産児で呼吸器系が他の赤ちゃんよりも未熟だったため感染症などもかなり気にしていました。「NICUに入院していた頃は一緒に居られないことが悲しくてしょうがなかったのに一緒に居られるようになって嬉しさだけじゃないのはなんだろう」と思う日々。当時は気づかなかったのですが、今思うと軽く産後鬱状態でした。

ある日、娘と入浴中に歌いながら娘の足を優しくマッサージをしてみるといつも以上に気持ち良さそうなお顔。「ふれあいしているつもりだったけど足りてなかったんだ」と気づきその日から1日数分のベビーマッサージを取り入れました。それから「育児が楽しい!面白い!」と思えたのは。

親子の心も満たされ、子どもの運動能力の発達、脳の活性化が期待できるベビーマッサージ。そこに子どもの選んだアロマを入れることで、子どもの今の心や身体の状態がわかる。アロマの力で心のバランスをまっすぐにすることができ。子ども自身が自分で感情ケアができる。

娘が「学校に行きたくない」という時期もありましたがアロマとベビマで心のケアをいつも以上に行なっていました。結果、自分から「学校へ行く」と動き出し、今では毎日楽しく通っています。

スキンシップは「心の栄養」です。大きくなっていくにつれ、触れ合う機会は減ります。だからこそ意識して触れ合っていく、日常的に子どもの心をケアを心がけたいです。



次回は... 各務原市立鷺沼第二小学校 P T A 土屋 まりえさん

各務原市PTA連合会 60周年記念事業

令和4年度に自身の母校でもある各務原市立中央小学校のPTA会長を拝命し、本年は同小学校の顧問と各務原市PTA連合会で執行部の一員として活動しています。

同市PTA連合会は今年めでたく60周年という節目を迎える事ができ令和5年は多くの記念事業が開催されました。60周年記念事業の一つとして各務原市立中央小学校にてロケットイベントを担当させていただきました。

この事業を開催したいと思ったきっかけは、岐阜県PTA連合会のオンライン記念講演「思うは招く」を知った事でした。その中に「この世に諦め方を知っている人は一人もいない、憧れや大きな夢を経験した事がない周りの人から諦めさせられる」「子ども達は知らないうちに諦め方を大人から教わってしまう。」という聞いた時、自分の子どもの夢や可能性を「どうせ無理」と言わないまでも、似たような言葉で奪ってはいないだろうか、ハッとさせられました。誰もが一度は憧れる宇宙やロケットが北海道の小さな会社でも出来るという事を証明するために宇宙開発事業を続け、人の自信と可能性が奪われない社会を作りたいという強い信念をお持ちでした。またそんな取り組みを周りの保護者が気づいてくれたおかげで、日本中でロケット教室が開催されロケットが飛んでいるとおっしゃって

数えたらきりがありませんでした。でも、自分の想いに賛同してくれる人達のおかげで、どんどん形になっていきました。

そして当日、子ども達が作ったロケットが「3・2・1発射!!」合図と共に発射ボタンを押すとロケットがシュッと音を立て、同時に時速200km/hで勢いよく空へ、厚い雲を突き破る勢いで沢山のロケットが打ちあがりました。打ちあがると同時に大きな歓声!!作ったロケットを回収に駆け出す子ども達、無事に打ちあがった安堵の表情と成功した喜びの声、素敵な笑顔がたくさん拝見することができ、記念事業は無事に終える事が出来ました。

植松さんの講演の中で不安の向こうに喜びがあるとおっしゃってましたが、まさにその通りでした。やった事がない事も不安な気持ちを伝えると必ず助けてく

いました。私が住む各務原市は、航空宇宙産業をはじめとする「ものづくり」のまちです。ロケット教室が周年事業に向いていると思ひ連合会に周年事業の企画としてロケット教室の話を持ち掛けました。イベントのインパクトもあり共感を頂き開催へのヒントも頂きました。多くの子ども達に参加してもらおう為に企業協賛を募る事です。市内のものづくり企業から協賛を頂く事で、魅力ある企業の存在を子ども達に知って貰う機会となり、またその子達が将来就職する時に、地元企業へ就職する一翼になれば、とても意義のあるイベントになるとの事でした。そしてロケットを打ち上げる為には北海道まで行ってライセンス取得する必要があるりました。ちょっと躊躇しました。仕事や家庭と「どうせ無理」と知らないうちに諦め癖がついているような気がしましたが子育てに関わる時間は短い!!今しかないと思ひライセンスを取得する決意を固めました。小学校の本部役員会議でロケットイベントの予定を報告すると、中央小学校の本部役員皆さんがイベントスタッフとして協力したいと申し出てくれました。この時は本当に嬉しかったです。こうして各務原市PTA連合会との合同研修事業としてロケットイベントを開催する事になりました。ですが大きな事業を開催した経験もなく準備の段階から不安な事だらけでした。当日の人の流れ、集客、協賛、告知、会場の確保、

い

れる人が現れました。どうせ無理を「だったらこうしてみれば」を体現できた二年でした。最後にこの周年事業に関わってくれた企業の皆様、学校関係者、保護者の皆様、全国のロケット教室の皆様、本当にありがとうございました。今後は継続事業として活動し一人でも多くの子ども達に「だったらこうしてみれば」を伝えていきたいと思ひます。



PN. わさび (可児市)



PN. プリンだいき (岐阜市)

question 1

出題・赤堀 晴輝 (岐阜市)
〈答えは41ページ〉

誰が見ても、値段が高く
て買わない物なんだ？



受け継がれる読み聞かせ

大垣市立牧田小学校PTA

牧田小学校PTAは、長年にわ

たり読み聞かせ活動を行っています。サークル活動の一環として毎年参加者を募り1年を通して活動を行っています。家庭では忙しさに追われ、また子どもが成長するにしたいが一緒に本を読む機会が少なくなっているのではないでしょう。子どもたちに色々な本を読む機会を設けることで、本に対する興味を育て豊かに成長していただくと願い、この活動を続けていきます。

読み聞かせ活動はPTAだけではなく、「紙芝居おじさん」による紙芝居の上演など地域のボランティアの方にもお世話になっています。

活動の流れ

新年度に担当役員が参加者を募集します。役員が参加者の中から、読み聞かせ実施月に各学年の担当者を振り分けます。1人2、3回ほど読み聞かせをします。担当学年は参加者のお子さ

んがいる学年を中心に組まれます。その後日程を調整し読み聞かせカレンダーを作成します。読み聞かせカレンダーにはその月の担当の実施日と、各学年の今まで（昨年）に読まれた本が記載され、選定に役立ちます。

読み聞かせ実施

読み聞かせは、朝活動の15分間に各学年の教室で行います。1、3冊程度本を読み、最後に子ども

たちから感想や次回のリクエストをもらいます。読み聞かせ終了後、読み聞かせノートに日付、題名、作者、一言感想（子どもたちの様子、次回のリクエスト、自分の感想など）を記入しています。また読み聞かせ担当者のグループプライドで当日読まれた本・生徒たちの様子・読んだ本の画像を送り、情報を共有しています。

復活「大型紙芝居」

かつて牧田小学校には「大型紙芝居」がありました。当時の親さん方による手作り、現在学校に残っている紙芝居は6作品です。毎年12月の人権集会「まごころ集会」に上演され、「とべないほたる」「いじわるコンキチ」など人権に関わる内容の他に、「牧田の昔話」といった地区のお話もあります。

長年にわたりその年の役員やボ

ランティアの方々にご協力いただき上演していましたが、世帯の減少に伴いボランティアの数が減り、平成30年度の上演が最後となりました。今年度は牧田小学校閉校記念イベントとして復活し、12月の「まごころ集会」で上演しました。内容は「にじいろのさかなしましまをたすける!」です。

大きさは通常の紙芝居の10倍ほどで、数人で手書きの大作を操作します。台本も手作りです。役を演じ、ナレーションやキャラクターごとに担当があります。BGMや照明の演出も工夫します。

普段の読み聞かせの絵本では味わえない迫力ある演技や演出で子どもたちも真剣に聞き聞いていました。

歴史ある読み聞かせ文化を未来へ

読み聞かせは長年にわたり続け

られてきました。親にとってはわが子の様子を見られる機会でもあります。子どもたちが集まり話を読み進めるにつれて、驚いたり、笑ったり、喜んだり子どもたちの感性の豊かさを感じます。そして、この活動を通して少しずつ子どもたちの心が豊かに育っていることを嬉しく思います。

牧田小学校は今年度で閉校し、新たに上石津学園に変わります。学園では町内の小学校4校と中学校が統合し、全く新しい生活スタイルに変化すると思われれます。読み聞かせのサークル活動についても未定です。ですが子どもたちは本が大好きで、読み聞かせを楽しんで聞いてくれています。読み聞かせという文化を新しい学園でも引き継ぎ、より多くの子どもたちに豊かな心を築いてほしいと願います。



親も成長。これからも。

中津川市立第二中学校

PTA会長 市岡幸一

周りを晴れやかにし、友との絆を大切に
してほしいと願い名付けた息子も今春、中
学校を卒業します。これまで、親子共に様々
なことを経験してきました。

息子が小さかった当時の私は、仕事と会
社の役柄で家庭を大切にできたとは言え
ない生活を送っていました。息子が2歳の
時、東日本大震災が東北の地を襲いました。
中津川でも振動が激しく、建設機械に乗っ
いても大きな揺れを感じるほどでした。す
ぐに家族の状況が安全であると把握しまし
たが、のちに未曾有の災害をテレビで目に
しました。多くの命が失われたあの日から、
一日でも早く復興しよう和日本中から駆け
つけた人たちがいました。そして被災地で

していききたいと思っています。また息子に
は、そうした姿を見たり、感じたりしても
ええたらと思います。そして、これからも
移り変わりが激しい時代を息子は生きてい
くでしょう。そんな中でも多くの人と出会
い、人との絆を大切にし、誰からも頼られ、
人の心を晴れやかにできる人へと成長して
いってほしいと、心から願っています。

一年365日

瑞穂市立東南中学校

PTA本部役員 戸田一文

中学生になり、ひとまわり大きくなった
「わが息子」。体格はもろんのこと、生活
圏や、交友関係、学習内容など、一年前と比
べれば、ひとまわりもふたまわりも大きく、
広くなった。

ちょうど一年前、当時在籍していた小学
校のPTAで「親の背中」の執筆依頼を受け、
その当時の様子を書かせてもらいました。こ

は、被災した地域の人々が共に助け合い、復
興の和を築き、誰もが結ばれた絆で周囲を
大切に作る姿がありました。そうした姿に
より、世界中から急速な支援が行われたこ
とを今でも覚えています。もちろん、息子
は記憶にないでしょう。ですが、私はそん
な日本人としての姿を誇りに想い、大切に
して生きていきたい。そうした姿を見て育っ
てほしいと思っていました。

仕事以外でも、忙しくしていた私は、小
学校高学年になった息子と、ある日一緒に
お風呂に入る機会がありました。その時、
息子から「いつも夜いらいけど、なんでそ
んなに忙しいの？何があるの？」と問われ、
やはり色んなことがわかるようになり、寂し
い想いをさせていたんだと後悔をしました
が、動揺し、その場の雰囲気で嘘をつくの
は良くないと思い、「お父さんは今、色んな
人に凄く頼られていて、少しでも力になり

縁があり、本年度は中学校のPTA本部役
員となり、この記事を書いています。

身長は、プラス10センチ。母親を越し、私
にも迫ってきています。寝起き姿の時には、
また伸びた？と思うほど、日々成長。部活
動や、学校活動に積極的になり、小学生の
ころはどちらかというと内気だった息子が、
と感心。ぶかぶかだった制服姿も、様になっ
てきた。親馬鹿かもしれないが、「カッコ
いいぞ。わが息子」。私自身が中学生だった
頃を思い起こせば、もうすでに、体格やそ
の他、大半の部分で抜かれている。

最近では、自分が中学生だった頃の話と、
息子の今の話を交互にしたりして、会話を
楽しんでいる。昔と今、時代が流れ、環境
は変わったけれど、変わらないこともあり、
面白い。私の通った同じ校舎で学校生活を
している息子とは、盛り上がる話。家内
は、分からない点も多く、申し訳ないが、「真
似をしたくなる親の背中」を目指してきた
が、もう息子とは、ライバル関係になっ

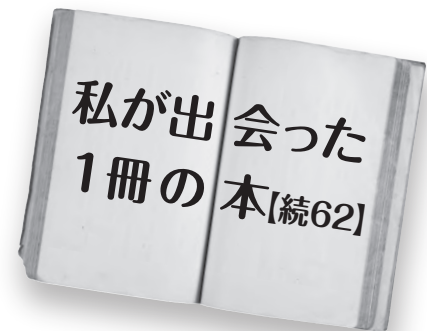
たいと思って行動しているんだよ。お父さ
んも色々周りの人に頼ったこともあったし、
助けられたこともあったからね。だから誰
かに頼られたら、全力で助けてあげてほし
いし、自分も苦しい時は誰かに頼れば良い
んだよ。もちろんお父さんだったら、全力
で助けるよ」というと、息子は「そうなんだ」
と理解したのか、理解できなかったかはわ
かりませんが、息子なりに少し心配してい
たのか、安心した表情をしていました。

子どもは親が愛情を持って手掛けた時間
や友達と経験したこと、学校教育により日々
成長します。しかしそれ以上に私は、子ど
もは日頃から親の表情・言動・行動といっ
た姿勢を見ているんだと思います。だから
こそ、大人である私はこれからも、仕事は
もちろん、それ以外のことでも誰かのため
になることは取り組んでいきたいと思いま
すし、そうした行動で自分自身、常に成長

いるのか。いろいろな話のなかでも「ぼくは、
こうしたい」と意思表示をし、それに納得
する私がい。PTA活動をしていること
もあり、今の学校生活をどのようにしてい
きたい？という会話もします。生徒たちが、
どうしていききたいのか、何を楽しいと思
い、どういうストレスを抱えているのか。「じゃ
あ、何すればいいの？」「そんなことでき
るの？」など、息子からの質問が出てきて、
それに対し、ああしよう、こうしてみよう
のやり取り。これは、もう同僚の会話です。
先に同じ景色をみて、今をどう行動するか？
こんな難しいことでも、会話が成り立つ。

365日経ち、息子の姿は大きく変わっ
た。びっくりするほどの成長。対して、私
はどうなのだろう。この一年、息子ほどで
はないけれど、少しの成長はあるのでは。

今度、息子に評価してもらおうと思います。



ちよつとだけ

作：瀧村有子
絵：鈴木永子

出版社：福音館書店
岐阜市立若小中学校PTA

安江夕希



私が出会ったこの一冊の絵本は、今でも私の御守りです。
この本の題名を見て懐かしいと思っただけかと思えます。「どうして絵本？」と思う方もいると思

いますが、私の感想文に「ちよつとだけ」お付き合ってください。
出会いは九年前の息子が保育園入園後、初めて親子参観があった日のことです。当時の園長先生が保護者へ向けて読んでくれた本がこの絵本でした。園長先生は保育士になってから何百回と親子へ読み続けてきた絵本だとおっしゃっていました。

この絵本の主人公は赤ちゃんが産まれてお姉ちゃんになったちよつちゃんです。なつちゃんは、赤ちゃんのお世話で忙しくしているママに気を遣い、ひとりで頑張ります。いつもママの姿を見ていたなつちゃんは、様々なことを「ちよつとだけ」成功してみせます。

ある日、公園から帰ると、眠くなつたなつちゃんはちよつとだけママに甘えたくなり、「ママ、ちよつとだけ」だっこして、「とお願いをします。するとお母さんが「ちよつとだけ」じゃなくて、いっぱいだっこしたいんですけれど、いいですか？」とママは優しく聞き返し、「なつちゃんをいっぱいだっこして、なつちゃんはママのにおいを嗅ぎながら、たくさんの愛情を感じます。赤ちゃんが産まれたこととお姉ちゃんとなった「なつちゃん」と「ママ」の心情を優しい絵と文で描かれている絵本です。

作者の瀧村有子さんはこの作品に対してこうお話しされていました。

「子どもを大切に思っていることを丁寧な伝えたいなら、「抱っこしてあげるからおいで」ではなく、「お母さんはあなたのことを抱きしめたんだ」と声にしてあげたらいいと思っています。ちよつとだけ」。

この言葉にジーンと感じながらもハッとしました。子どもを抱きしめるといふ愛情表現も、言葉ひとつでこんなに違うものなんだと改めて子育ての奥深さに気づきました。

私が出会ったこの絵本は二つあります。

一つ目は、当時、兄妹の育児で手上げ状態だった私にはとても身に染みる内容だったことです。まだ幼かった兄妹を育児するにあたって、何を優先したらいいのか分からない時もありました。また、お兄ちゃんだからと理不尽に立場を決めつけてしまうこともたくさんありました。しかし、この絵本と出会い、子どもの自立を見守る心が親にないといけないこと。そして何より、子どもが親から愛されていると感じてもらいたいことが、一番育児に大切なことなんだと知りました。

それから、育児に対してあまり難しいことは考えずに子どもと向き合っていくことができてきました。

二つ目は、この絵本と出会った当時を思い出すことで、子どもへの想いも思い出せることです。絵本との

出会いから九年後の現在は、中学生になった息子、小学生の娘二人の子育てをしています。当時とはまた違う悩みもあります。また、親の私たちだけではなく、子どもたちも様々な悩みと向き合っています。そんな中、親として子どもにできること、結局それは、今も昔も変わらず愛情なんだと私は思います。そうやって今も、私の心をスタート時点へと戻してくれます。

素敵な出会いをしてくれたこの絵本。きつとこれからも私の大切な子育ての御守りであることだと思います。

鋼のメンタルを手に入れる
ゴリラ式メタ認知トレーニング

著者：精神科医いっちー
出版社：ぱる出版

大垣市・安八郡安八町組合立東安中学校PTA会長

狩谷信孝



「メタ認知」、「メタ思考」、これらの言葉を聞いたことはあるでしょうか。1970年代に提唱された、自分自身の行動や思考を、もう一人の自分から客観的に認識する能力のことです。「このことですか」と書きました。私も最近知ったことであり、仕事で壁に当たってもがき苦しんでいる中で、自分の思考や発想をどうすれば成功に向かっていけるのかを調べている際に、一つの方法論として知りました。

の重要性や効果について理解することができました。メタ認知は、自分を自分で「認知」することから始まり、逆にそういう考えを「認知」しなければ気が付きようもない考えです。自分を、一つ上にいる（と仮定した）もう一人の自分から客観的視点で俯瞰し、「その行動、発言、思考は正しいのか、狭い世界に陥っていないか、安易でないか」と自問する技術がメタ認知です。

そこでなぜゴリラが出てくるのか、印象に残ったのは、第4章の「ゴリラ式メタ認知トレーニング」の実践です。この章では、自分の思考や感情に気づき、それらをコントロールするための具体的なステップが示されています。その中で、特に重要だと感じたのは、自分のルールを「ゴリラ思考」で打破するということです。私たちは、自分にとって都合の

いいルールや思い込みで囚われて、自分の可能性を制限してしまうことがあります。しかし、ゴリラは、自分のルールにとらわれず、自然に従って生きています。一方でゴリラは精神の構造や社会までが人間とよく似ていて、血縁関係や友達といった絆を形成しているそうです。そのようなゴリラの姿勢を、悩んだ時に思い浮かべてもう一人の自分（ゴリラ）から自分を見ることができれば、私たちも自分のルールを見直し、より自由に生きることができるようになるかと思いました。極端な例を言くと「明日会社に行くのはつらいな」と思った時に、ゴリラに聞いてみるとどのような答えが返ってくるのでしょうか。「行かなきゃいいじゃん」と返ってきます。現実それで会社を休む行動はなかなかないと思いますが、なぜ会社に行かぬ

ばならないか、お金のため、家族のため、生活のため、それなら本当に会社に行くことだけが選択肢でしょうか、と新しい視点に気がつくことができます。
この本を読んで、私は自分のメンタルを強くするために、「メタ認知」を意識して日常生活に取り入れてみたいと思えました。また、ゴリラに対する興味や好奇心も高まりました。ゴリラは、私たち人間と似ているところも多い動物ですが、同時に私たちにはない独自の魅力や知恵を持っています。ゴリラから学ぶことは、私たちの人生にも役立つと感じました。この本は、メンタルを鍛えたい人にとっての考え方として学ぶためにおすすめしたい本です。

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. 木村 陽平 (各務原市)



PN. 金太郎 (加茂郡)

question

出題：玉腰 陽直子 (郡上市)
(答えは41ページ)

貝は貝でも、お風呂に入っている貝ってどんな貝？

子の思い

えだ豆を食べたよ

可児市立桜ヶ丘小学校

三年 渡邊 紗菜

桜ヶ丘小学校の三年生は、大豆を育てています。夏休み前にみんなでたねをまきました。大きく育てとねがいをこめて、やさしくたねに土をかぶせました。夏の暑い日もぐんぐんと大きく育って、しゅうかくする日がとても楽しみでした。

えだ豆になった大豆をしゅうかくして、食べる日になりました。朝からとてもわくわくしました。やさしく大切にえだから切りはなししました。先生がゆでてくれて、きゅう食の時間にみんなで食べました。豆の味がしっくりして、とてもおいしかったです。みんなでたねをまいて育てた大豆が、りっぱなえだ豆になって、それをみんなで食べることに

ができてとてもうれしかったです。

大豆はえだ豆だけではなく、しゅうゆ、みそなどにもすがたをかえると国語のじゅぎょうで習いました。みんなでしゅうかくした大豆のこりは、お豆ふにして食べる予定です。えだ豆とはちがうすがたの大豆を食べることがとても楽しみです。

ぼくの地区の村井さん

多治見市立昭和小学校

六年 曾我 雄大

ぼくの地区には、村井さんという見守り委員さんがいます。ぼくが一年生の時から、晴れの日も雨の日も雪の日も、登校を見守ってくれている村井さんは、なんと八十四歳です。ぼくは、村井さんがどうして見守り委員を始めたか聞いてみました。すると村井さんは、お孫さんの小学校入学の時から見守り登校をするようになったそうです。それから

二十年以上、毎日、見守ってくれているということでした。さらにぼくは、いつまで見守り続けてくれるかについて聞いてみました。すると村井さんは、「自分が歩き続けられるうちは続けたい。」と言っていました。

村井さんのような方がいることで、昭和小の児童は、安全に登校し、元気に生活できているのだと思います。地域のボランティアの人たちの気持ちや大切さがよく分かりました。ぼくは、今年度で小学校を卒業しますが、卒業まで、大きな声であいさつをして、村井さんへの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

情報機器に利用されるのではなく、利用する

高山市立中山中学校

三年 三室 穂乃佳

中山中学校における情報機器(ス

マホやタブレット等)の所有率は九十七%。ほとんどの生徒が何かしらの手段でネット社会と繋がっています。しかし、所有するために免許があるわけではなく、安易にネット社会と繋がっているために、トラブルに巻き込まれた仲間も少なくありません。そこで、平成二十六年に生徒会とPTAが話し合いを重ね「ネット機器使用の約束」を決めました。当時はこの約束で、睡眠時間が確保できるように学力が上がったという学力が上がったりしたそうです。しかし、時間が経つにつれ、約束も形骸化しています。

そこで、昨年度より有志の生徒で《情報モラルこのままで委員会》を発足し、約束の改定や啓発に取り組み始めました。特に力を入れているのは、親子で話し合い、情報機器のより良い使い方を考えるための「情報モラル通信の発行」です。生徒の実態に合わせて内容を吟味し、月に一回発行しています。これまで

親の願い

世界に一つだけの花が咲くように

岐阜市立藍川小学校

PTA会長 鳥井 智世

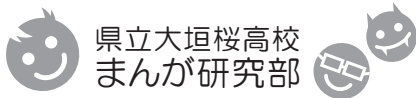
「白い花のように誰からも愛され、誰をも愛する優しい子に育てほしい」

「花が咲くような可憐でかわいらしく、誰にでも気配りができる優しい女の子に育てほしい」
娘たちの名前はそれぞれ、そんな

行事などを入れないよう、学校にお願いしたりすることも実現しました。情報機器は、今後ほとんどの生徒が所有し、利用していくこととなります。所有のために免許が必要ないからこそ、モラルを身につけたり、情報をアップデートしたりしなければなりません。そのためには、親と話し合う時間をつくり、お互いの考えや情報を交流して、より良い使い方ができるようにしたいと思います。これからは「親子の会話の花がひらく」中山中学校を創っていきます。

親の願いを込めた最初の贈り物であり、一生の宝物でもあってほしいと生まれた時に名付けました。現在11歳の長女と共に私自身も母親として11年生、ここまで娘たちが不安な時は振り返ったらいっても話ができるような存在でいたいと、共に成長してきました。

長女は正直すぎて人を思い優しすぎるところもあるけれど、何にも挑戦したいと即決即断即行動する女の子です。そんな長女に影響されて、現在8歳の次女も不器用ながらも一生懸命で、内弁慶だけどやりたいと決めたことはやり抜く頑固



県立大垣桜高校
まんが研究部

残り1個



逆さ言葉

にわとりとことりとわに

(鶏と小鳥とワニ)

土屋 美賀 (関市)

さは長女には負けていません。

そんな二人のいろいろな可能性に挑戦してほしいと、娘がやってみたいということはできる限り繋げることが私が親としての務めだと思っています。もちろん不可能なこともあります。でも、そんな中でも一緒に道を探したり、娘たちの心の応援団になれる母親でいるように心がけています。

ある時、ふと私の手をなかなか離さずに幼かった我が子に「この子も一人の人間としての考えや思いがあるんだ」と気づくことがあります。その時から、最初から手をずっと繋ぐのではなくまず自分でやってみる、もしもくじけそうな時や心が折れそうな時に、そっと声をかけられる母親でいようと思いはじめました。

我が子に大切にしてほしい今の親の願いがあります。それは「自分のことを自分の言葉で語れる人になってほしい」ということです。

そして同時に、私自身も時に母親として、時に人生の先輩として、そして時に女性として、一人の人間として、自分のことを真っすぐに娘たちに語るようにしています。相手の心を理解するには、まず自分の思いを自分の言葉で相手に伝えて理解してもらおう。「だって話したもん」と自分の思うことをただ話して終わるのではなく、相手が自分の思いを理解して、初めて「伝える」ということができるし、相手も心を開いてくれるんだよ、と常日頃娘たちに伝えていきます。

今は隣にいる娘たち。いつの日か成長してやがて大人になっていきます。どうか親の願いを宝物にして、成長していつてほしいです。そしていつも笑顔で心の応援団でありながらも、我が子がいつか巣立っていく日と思うと、実はちょっぴり寂しくなる私もあります…。

娘の決断

垂井町立不破中学校

P.T.A 馬淵 有加里

一年生の春、運動が決して得意とは言えない娘が選んだ部活は、完全初挑戦のソフトボール部でした。友達から誘われたわけでもなく、自分の意志で入部を決めてきたようで、小学生の頃の娘からは想像もできなかった姿とその決断に、我が子ながら、カッコイイと思いました。

素敵な先輩達に恵まれ、娘はどんどんソフトボールが好きになっていきました。時には上手くいかなくて悩み、やる気をなくすこともありました。今まで一度も、辞めたいという言葉聞いたことはありません。そればかりか、顧問の先生から頂いた言葉にすっかり向き合い、自ら考えて行動できるようになってきました。私はそんな娘のたくましい姿に感心し、心から応援したいと思う様になりました。

娘が入部した日を境に、我が家にも新しい風が吹きました。喧嘩ばかりだった弟は、家で練習する姉の相手になろうと、庭で一緒に練習するようになりました。主人は、野球経験者だったので、ソフトボールを通して娘の良き相談相手となり、たくさん話をできるようになりました。私の母の心も輝きました。母も昔、ソフトボール部に所属していたので、孫の話を聞く度に、自身の色んな記憶が蘇るようで、たくさん思い出話を聞かせてくれました。話をその表情は、とても生き生きしています。そして私自身も、まだ一番下手ですが、楽しくキャッチボールできるようになりました。母として娘を誇りに思い、感動できることも増えました。家族にとって、ソフトボールがとても大きな存在になりました。

娘の一つの決断が、娘自身だけでなく家族の心も、大きく成長させてくれたと実感する日々です。そう感じた私でした。

教育の窓

大人は「笑顔」であれ

土岐市立駄知小学校

校長 水野 浩庫

アメリカの心理学者ウィリアム・ジェームズの「楽しいから笑うのではない。笑うから楽しいのだ。」と

じさせてくれた娘と、先輩、先生方など、ソフトボールで出会った様々な方々に、家族一同、本当に感謝しています。

という言葉があります。楽しい・嬉しいという感情があつて笑うという行為が生まれるのではなく、その逆であると言っています。

さて、私は三十年以上学校に勤めています。そのきっかけとなったのは私が小二の時の担任の先生です。大好きだった担任の先生に憧れて抱いた先生という職業でした。先生は、いつもニコニコ笑っていました。休み時間になれば校庭で一緒に遊んでくれました。ドッチボールが得意な先生は、休み時間もみんなのヒーローになっていました。ドッチボールが苦手な私は、先生の

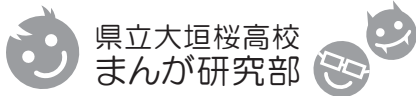
陰に隠れながらも、仲間と楽しんでいたことを覚えています。毎日、学校へ行くことが楽しくて仕方ありませんでした。

そんな楽しい学校生活でしたが、苦くも温かくて忘れられない思い出があります。それは、地域の施設について調べてきた事を発表する授業でした。調べてきたノートを手にして自信満々に授業に臨みました。しかし内容に間違いがあり、みんなから指摘されました。それに対して素直に納得できない自分がいました。結局、私の勘違いでしたが、その時は一生懸命やってきたことが否定さ

れたようで、体が熱くなり涙が溢れてきました。心が晴れないまま帰宅した私でした。

夕方、一本の電話が鳴りました。大好きな担任の先生からでした。授業中のことが気になり、心配して電話をかけてきてくださったのです。母へは「悲しい思いをさせてしまい、申し訳なかったです。」と、心のこもった言葉が伝えられました。私の心が、あつという間に晴れ渡ったのは言うまでもありません。今でもこのことを思い出すと心がジンと熱くなります。

五十年近く前のことですが、あの



県立大垣桜高校
まんが研究部

お出かけサンバ



逆さ言葉

たしかたまをまたかした

(確か玉をまた貸した)

辻 綾菜 (岐阜市)

頃の思いやり溢れた先生の顔は今でもはっきり覚えています。いつも「笑顔」の先生でした。先生の笑顔にっられ私たちもいつの間にか笑顔になり、楽しいという感情が生まれ、毎日元気に学校へ通うことができていたのだと改めて感じました。

子どもたちの笑顔のために周りの大人が、常に「笑顔」であることを忘れないようにしたいものです。

進路選択で大切にしていこう

各務原市立鶴沼中学校
 教頭 長尾 崇

私は中学校勤務が長く、生徒の進路選択の場面に数多く関わってきました。三者懇談では、親子が志望校を笑顔で決める。一方で、懇談中に親子喧嘩が始まる。また、親が進路先を一方的に決めたために生徒が涙するなど、様々な家庭模様を見聞き

ました。特に印象深く残っているのは、無言のまま四時間を経過する懇談を行ったことです。

こうした経験から、終始保護者が温かい眼差しで生徒を見守り、支えたことが、結果として生徒が自立して生きていく関わり方であったと考えています。

生徒が進路選択をする上で、保護者の支援は欠かせないですが、過度に干渉してしまうと生徒が主体的に進路選択に向き合えなくなる恐れがあります。まずは、生徒が進路選択で迷った時に、よき相談相手と思える関係性を日頃から作っておくことが大切だと思います。ここで、生徒がよりよい進路選択ができるために大切だと私が思うことを三つ挙げてみます。

①視野を広げ、将来の目標を見えるようにする

「進路選択」イコール「高校選択」ではありません。「進路を選択する」ということは、「自分の生き方を考

える」ことです。その選択は当然、なりたい自分を見据えての選択であります。しかし、中学生の多くはやりたいたいことが特に明確にあるわけではなく、将来についても具体的にイメージができていないことがほとんどです。そのため、まずは将来どのようなことをやりたいか、どのような仕事をしたいのか、どのような人間(自分)になりたいのかなどを具体的に考えるよう促してみてください。夢・目標・具体像が定まれば、自ずと生徒は何をすべきか考えることができるようになると思います。

②自分のやりたいことと進みたい学校等の校風や雰囲気が出合っているか調べる

将来、自分がやりたいことが実現できる学校であるか、校風や雰囲気が自分に合っているかなど見極めることが大事です。そのために、積極的に学校見学会に参加したり、学校のホームページを見たりして、比較検討をしてみてください。生徒自身

で調べ納得すれば、進路選択への自覚が高まると思います。

③進路決定に向けての支援ができる家庭環境をつくる

生徒と話し合っ、「受験生ルール」を決めてください。「勉強を始める場所や時間を固定する」、「スマホやゲームのルールを決める」など、生徒自身で考え、決定し実行する。保護者は「チェック機能者」ではなく、あくまで支援者に徹してください。生徒は、自立して進路選択に向き合っていくと思います。

中学生にとって、一番の心の支えは保護者です。生徒が夢や希望をもって進路選択をして生きていくために、日頃より一人の人間として関わってください。学校は、全力で協力をしていきます。



笑顔になれる約束事

関市立富野小学校 PTA 熊倉 周子



毎日家族で過ごす時間を作るようにし、その時間は楽しく過ごせるよう工夫しています。

①夕食は、家族そろってご飯を食べ、その日あった出来事をひとりずつ発表する。

自分の思ったこと、話したいことを相手に伝えられるよう始めた取り組みですが、今ではとても楽しい時間となりました。

②食後は全員で食器の片づけをする。

4人家族なので最初に片づける食器等全部を四分割にし、じゃんけんをして勝った人から、好きな箇所を選びます。じゃんけん以外にもゲームをして決めたりして、楽しんで片づけることを目的としています。この方法にしてから、子どもたちも進んで片づけができるようになりました。

他にも約束事はありますが、どれも無理せずできる事からやっっていくことを前提とし、約束事をふとした時に思い出して、自ら行動できるようになれたらうれしいです。



**話そう!語ろう!
 わが家の約束**

- ・約束1 『自分が愛されている存在だということを決して忘れてはいけない』
- ・約束2 『SNS禁止!』
- ・約束3 『中・高校生の門限は22時』
- ・約束4 『男女交際は高校生から』

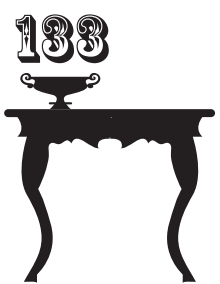
わが家の中で一番大事な約束は、約束1の『自分が愛されている存在だ』ということを決して忘れてはいけない』です。「それは約束なのか?」と少し考えましたが、これ以上大切な約束はないと思い一番最初に書き出しました。

約束2、3、4は、子供たちを様々な危険から守る為に作っています。特に約束2についてはスマホに見守り機能をつけて厳守しています。

SNSは便利ですが、大人も子供も危険です。ネットの世界は無法地帯。ありとあらゆる情報の中から取捨選択することは大人でも難しい。思春期になり心の成長過程にある子供たちには、『誰かのなにか』に振り回されることなく、『自分軸で生きること』を大事にして欲しい。我が家ではスマホを買い与える時からの揺るぎない約束です。

匿名

親子の約束は大人の揺るぎない信念が大事



豆乳根菜汁

岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

豆乳根菜汁は、寒い冬に食べてほしい、体も心もほっこりする汁物です。豆乳を入れることで、和風のシチューを食べているような、まろやかな味になり冬にピッタリの汁物になります。

大根、にんじん、ごぼう、れんこんなどの根菜は冬に旬を迎えるものが多く、血行をよくしたり代謝を上げたりすることで、体を内側から温めてくれる働きがあります。色々な食材を使った具だくさんの汁物は、栄養のバランスがよく、汁の中に溶け出した野菜のビタミンやミネラルなども一緒にとることができるので、おすすめの一品です。

作り方

- ① 大根、にんじん、れんこんは、いちょう切りにする。(れんこんは水にさらす。)ごぼうは皮を軽くこそげとり、ささがきにして水にさらす。ねぎは小口切りにする。厚揚げは油抜きし、縦半分に切り、5mm幅に切る。豚肉は1cm幅に切る。
- ② 鍋にだし汁を入れて火にかけ、ごぼう、大根、れんこん、にんじんを順に入れて煮る。
- ③ 野菜に火が通ったら、厚揚げと豚肉を入れる。
- ④ みそを溶きながら加える。
- ⑤ 豆乳を入れる。(強火で熱しすぎると分離することがあるので、弱火で沸騰しないように気をつける。)
- ⑥ 最後に器に盛り付け、ねぎを散らす。

材料

【材料】(4人分)

豚肉	100g
厚揚げ	1枚 (120g)
大根	3cm (120g)
れんこん	5cm (80g)
ごぼう	1/4本 (40g)
にんじん	1/4本 (50g)
ねぎ	5cm
だし汁	600ml
みそ(白みそ)	大さじ1
豆みそ(赤みそ)	大さじ1
豆乳	200cc

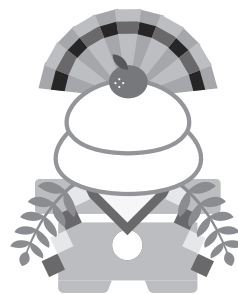
●栄養価(1人あたり)

エネルギー	178kcal
たんぱく質	11.9g
脂質	10.1g
カルシウム	131mg
鉄	2.3mg
亜鉛	1.5mg
ビタミンA	59μgRE
ビタミンB1	0.26mg
ビタミンB2	0.10mg
ビタミンC	10mg
食物繊維	2.7g
食塩相当量	1.0g



Q1 鏡餅の上のにせるものは、元々「みかん」ではありませんでした。では、何をのせるのでしょうか?

- ア ポンカン
- イ 橙
- ウ いよかん



1月号の

親子ではてな



Q2 除夜の鐘は何回つくとされているのでしょうか?

- ア 56回
- イ 99回
- ウ 108回



応募方法

応募者は、はがきで、1月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●1月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

11月号クイズ答え

Q1 (ウ) Q2 (ア)

11月号のクイズ当選者

中村 心音 (岐阜市) 清水 健汰 (関市)
深尾 美帆 (岐阜市) 鈴木 伶実 (郡上市)
武藤文琉斗 (羽島市) 和田あかり (郡上市)
高田れいな (各務原市) 伊佐治琉那 (美濃加茂市)
松原 壮右 (羽島郡) 小縣 一摩 (加茂郡)
五十川陽南 (揖斐郡) 堀 華蓮 (高山市)
市村 優成 (関市)

なぞなぞの答え

- ①竹(たけ〜!)
- ②あったかい



【5年生 ソーラン】



【6年生 赤坂宿施設見学】



【創立150周年記念式典での6年生とコーラス赤坂の合同合唱「赤坂の詩」】

赤坂小学校は、大垣市の北西に位置しています。北側には、大石や石灰が産出される金生山、西側には生き物がたくさん生息している杭瀬川が流れており、静かで自然豊かな地域です。一学年二〜三学級の中規模校で、「みんな なかよし」を学校教育目標にし、児童も教師も地域の方々も、相手の気持ちを考えたり、感謝の気持ちを大切にしたりして、その目標のごとく、みんななかよく過ごしています。

本校の特色あるふるさと学習の活動としては、大きく二つあります。

一つめは、四年生で行う「杭瀬川舟下り」です。ふるさとを流れる杭瀬川について、総合的な学習の時間に調べ学習をしたり、カワゲラウォッチングをして川の中の生き物について実際の方の協力により、舟下りをさせていただき、舟に乗って川を下りながら、間近で川の中を見て環境問題を考えたり、船頭さんから笹舟の作り方を教えていただいて、川に浮かべてみたりする体験をしました。また、杭瀬川にフナを放流する体験もします。

二つめは、校区にある、中山道六十九次の五十七番目の宿場町として栄えた「赤坂宿」についてです。皇女和宮が、徳川十四代将軍家茂のもとへ降嫁するために中山道を通られたことから、毎年十一月の第一日曜日に「中山道赤坂宿祭り」が行われます。そこでは、本校の五年生が、ソーランを踊って好評を得ています。また和宮の行列に付き添う子ども侍として参加する児童もいます。六年生になると、総合的な学習の時間に中山道の宿場町「赤坂」の歴史や史跡について探検したり調べたりします。実際に、中山道沿いを歩き、「赤坂湊会館」や「本陣跡公園」「旧清水家宅」「お茶屋敷跡」「お嫁入り普請探訪館」「安楽寺」などの史跡を訪ね、地域のボランティアガイドさんにお話を聞い

【4年生 舟下り】



たり、施設の掲示物を読んだりして学習をします。それを各自新聞にまとめ、発表をします。また、その集大成として、二十三年前につくられた、赤坂の歴史を合唱曲にした「赤坂の詩」というオリジナル曲を合唱し、発表します。特に今年度は、創立百五十周年記念式典の中で、地域の合唱団の方々と一緒に歌い、ともに「ふるさと赤坂」への思いを深めました。今後も、この合唱曲を歌い継ぎ、歴史ある「ふるさと赤坂」を大切に、誇りに思う気持ちを広げていきたいと思っています。

【能（謡）】

本校児童は10年以上前から、8月7日に地域の明建神社で行われる「薪能くるす桜」に出演しています。この発表は地域の方から喜ばれており、「短歌と能の学校」として認められています。今年度も、「古今伝授の里フィールドミュージアム」の支援で、京都から能楽師味方團（みかたまどか）氏を招き、クラブ活動の時間に「ふるさと文化クラブ」のメンバーに「謡」を指導していただきました。練習に励み、その成果を本番で披露することができました。児童が能に関わることで、保護者も地域の伝統文化を意識することにつながりました。能を行うことが、「古今伝授の里」づくりにつながっていることが分かり、伝統を引き継ぐ思いを強くすることができました。



<ふるさと文化クラブ 練習風景>



<ふるさと文化クラブ 能（謡）の発表>

【清流長良川】4年生

4年生は、長良川について地域の方から学んでいます。5月には、郡上漁協の方にお世話になり、校区の長良川で鮎の放流体験を行いました。6月には高鷲の分水嶺公園と原生林を訪れ、高鷲在住の講師の方から、長良川の始まりと高鷲地域の自然や山の役割についての話を伺いました。6月末には、「清流長良川あゆパーク」へ行き、川の生態調査を行い、水生昆虫を捕まえたり、長良川の魚についての話を聞いたりしました。9月には再び「清流長良川あゆパーク」を訪れ、もみじの植樹体験を通して、山と川、人との関係について学びました。9月末には築（やな）場見学を行い、築漁や鮎の一生、鮎と人との関わりについて学びました。また、実際に鮎のつかみ取り体験をしたり、鮎の塩焼きをいただいたりして、鮎にかかわる地域の文化や食について学ぶことができました。

こうした山や川、そこに住む生き物や人の生活について学ぶ活動を通して、児童は自分たちの住む郡上の自然の素晴らしさを体験することができました。そして、自然と人が関わり合って生きていくこと、自然を守って大切にしていこうとする心が育ってきています。



<長良川 鮎の放流体験>



<長良川源流 分水嶺見学>



<川の生態調査>



<もみじの植樹体験>



<築（やな）場見学>

郡上市立大和南小学校は、郡上市の中央西に位置する、全校児童89名の小学校です。1873年（明治6年）の創立で、150周年を迎える今年度で閉校となります。学校の教育目標は、「心豊かでたくましい子 考える子 思いやる子 やりぬく子」です。今年度は、「笑顔でつながるみなみ小 ありがとう!」を合言葉に、しめくりの1年、最後まで精いっぱい取り組んでいます。



【短歌】

本校では、古今伝授の里づくりの一環として、週1回、帯時間に短歌づくりを継続しています。また、年間2回（6月と12月）、古今里子の時間（生活科及び総合的な学習の時間）には、地域の短歌会の方を講師に招いて短歌教室を行い、よりよい作品作りになるようにと取り組んでいます。

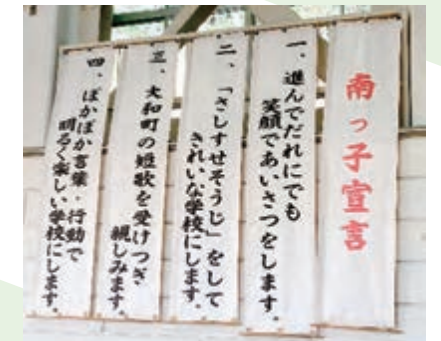
7月の人権七夕集会では、親子で作った短歌を短冊に書き、七夕飾りとして飾りました。また、12月には人権教育週間と関わらせ、「ぼかぼか短歌づくり」を行いました。

児童会では、「南っ子宣言」にある「大和町の短歌を受けつぎ親しみます」を具現しようと、計画委員会主催で短歌交流会を行い、昼の放送で短歌を紹介したり、掲示したりしています。

こうした取組を通して、自分の思いを言葉に表すことのよさを実感し、子どもらしい素直な感性を伸ばしています。



<短歌教室（1年生）>



<南っ子宣言>

剣道部



剣道部では、個人・団体共に地区大会出場を目指して部活動に取り組んでいます。礼節を重んじ、心身ともに鍛えながら、日々厳しい練習に励んでいます。一振入魂の合言葉のもと、己の心に克ち、真っ向から勝負する剣道を目指します。

卓球部



卓球部では、夏の中体連で全員地区大会出場を目指しています。合言葉は、「全力・楽しむ・団結力」です。普段の練習では、教え合い、基礎練習を大切にしています。中学校で卓球を始めた仲間ばかりですが、一つでも多く勝てるように頑張ります。

野球部



野球部では、県大会ベスト4以上を目標にしています。先輩たちが残してきた結果を越えるために、厳しい練習も頑張っています。野球の技術面だけでなく、あいさつなどの礼儀にも力を入れています。これからの活躍に期待してください。

陸上部



陸上部では、みんなが自己新記録・東海大会出場を目指して日々活動しています。練習や大会では、陸上競技を楽しむことを大切にしながら、チームで切磋琢磨しています。これからもベストを尽くして頑張ります。

吹奏楽部



吹奏楽部では、「共奏～起こそう吹奏楽革命～」をスローガンに、日々励んでいます。練習では、呼吸法やロングトーンなどの基礎を大切に、楽しくパート練習、合奏練習をしています。地域のイベントにも参加しているので、ぜひ、いらして下さい。

サッカー部



サッカー部では、県大会優勝を目標に日々努力しています。普段の練習では、個々の技術アップだけでなく、チームの連動した動きを大切に、戦術にもこだわっています。チームの仲間と最後までボールを追いかけて、諦めずに頑張ります。

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部では、県大会出場を目標にしています。部の合言葉は不撓不屈です。普段からお互いに声をかけ合い、チームワークを大切にしながら練習しています。一回一回の練習を大切に頑張ります。

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部は現在、部員が4人しかいないため、試合に出ることができません。普段は、基礎的な練習をしたり、女子と一緒にミニゲームをしたりしています。来年度、新たなメンバーが入部することを願って、日々の練習を頑張ります。

美術部



美術部では、鉛筆やアクリル絵の具などで絵を描いたり、粘土で作品をつくらたり自由に創作活動をする部活です。また、学校行事で使用するスローガンのデザイン・制作等も行い、自分の特技を全校の為に発揮しています。

茶道部



茶道部では、部員同士の関わりを大切に部活動に取り組んでいます。礼儀作法やお点前の練習が活動の中心ですが、ときどきレクリエーションを行って部員同士の仲を深めています。これからも日々の練習に励んでいきます。

女子バレーボール部



女子バレーボール部は、地区大会出場を目標に活動しています。レシーブやスパイクなどの基本的な動きを身に付けられるよう、日々努力を重ねています。声をかけ合い、みんなが困難を乗り越える、そんな人間力も磨いていきたいと考えています。

男子バレーボール部



男子バレーボール部では、中体連で県大会ベスト4を目指しています。合言葉は、『人間力・規律・挨拶』です。常に、指導して下さる方や保護者に感謝しながら、糸貫中学校らしいプレーを目指します。

パソコン部



パソコン部では、パソコンに関する検定取得を目指しています。合言葉CPU(Challenge Progress Unify)を意識し、技能習得を目指して、反復練習や教え合いをしています。将来を見据え、各々が設定した目標達成に向け努力を積み重ねていきます。

女子ソフトテニス部



女子ソフトテニス部では、仲間と楽しくプレーすることを大事にしています。コーチからの指導を大切にしながら、毎回の練習に励んでいます。春季大会では、思いきりプレーができるようお互いに切磋琢磨していきたいです。

男子ソフトテニス部



男子ソフトテニス部では、全員が学年関係なく、お互いに声をかけあうことを大切にしています。また、日々仲間と練習する中でお互いにアドバイスしあうなど、切磋琢磨しながら、毎日の練習に取り組んでいます。



私たちのPTA



情報モラル親子研修会



高校見学会



給食試食会



資源回収



- 研修会 ・ 給食試食会
- ・ 「よつこそ先輩」講演会
- 【地区委員会】
- 各地区から1名
- ・ 資源回収
- 【学級委員会】
- 各学年から2名
- ・ 学級懇談会

1. はじめに

神測中学校がある七宗町は、およそ9割を山林が占め、町内を神測川・飛騨川が流れています。飛騨川の河床からは20億年前の「上麻生礫岩」が発見されたことや、飛水峡一帯に甌穴群（ポットホール）が点在することなどでも有名です。毎年冬には、美しい自然の中をコースとして走る「レッキーマラソン」が開催され、全国から多くのランナーが集まります。このように、人は温かく、自然豊かな美しい町です。

神測中学校は、全校生徒が29名です。1年生18名、2年生1名、3年生が10名と少人数の学校です。生徒数の減少に伴い、家庭数も減少するため、PTA活動をこれまでと同じように運営していくことが難しくなってきました。昨年度から、PTA組織の在り方、役員会等会議のスリム化、活動の精選、資源回収等行事の見直しを行い、役員や会員の負担を軽減しながらも活動の質は維持していくことに取り組んでいます。

2. 令和5年度の組織と活動計画

- 【本部署員】
- 会長1名 副会長2名 会計1名
- ・ PTA活動の運営 ・ 学校行事への協力 ・ 各委員会との連携・調整
- 【子育て委員会】
- 子育て委員長1名(兼副会長) 各学年から1名
- ・ 家庭教育学級の活動運営 ・ 高校見学会 ・ 情報モラル親子

3. 活動の様子

令和5年度は「心身ともに健やかで活力ある子どもの育成をめざして」をテーマに活動を進めてきました。

今年度から新しい方式で資源回収を行いました。これまでは地区委員を中心に各地区で集めた回収物を、集積場所まですべて運搬してトラックに積み込む方式でしたが、子どもがいない地区が増えてきた現状を踏まえ、各地区にステーションを設けて回収業者が回収してくれる「ステーション方式」を採用しました。集積場所まで運搬する負担を軽減して、今後も持続可能な方式にできました。

10月には家庭教育学級で「情報モラル親子研修会」を実施しました。岐阜県警察の方に講話していただき、SNSの利用の在り方について親子で考えることができました。

これからも「子どものために何が必要か」を保護者と学校と地域がいっしょに考え、共に子どもの成長を見守っていけるPTAを目指していきたいと思えます。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

各務原市立蘇原第一小学校



1年 しゃぼんだまあそび

1年生は生活科の学習で水遊びとして、身近にある物を利用して、しゃぼん玉や水鉄砲を楽しみました。うちわの骨からたくさんのしゃぼん玉がでたり、水鉄砲の水が飛んだりすると、「みて!みて!」「すごい、できた!」などの歓声が上りました。季節の遊びを存分に楽しむと同時に、そこにある自然の不思議さや面白さを心と体で感じ取ることができました。



2年 いもほり

2年生は「さつまいもほり」で、地域ボランティアの方と一緒にサツマイモの収穫をしました。土の中からサツマイモがひょっこりと顔を出した瞬間、子どもたちはみんな大興奮でした。サツマイモは予想以上に立派に育っていて、子どもたちは汗だくになりながらも一生懸命に土を掘りました。苗植えから収穫まで地域ボランティアの方々にお世話をいただき、子どもたちは感謝の気持ちをこめてお礼の手紙を書きました。



4年 国語 話し合い

蘇原第一小学校では、仲間と学習することを大切にしています。そのためにノートやタブレットを活用しながら自分の考えをもち、それを見せながら、仲間と考えを伝えて、同じところや違うところを確かめ合う姿が授業で見られます。4年生の国語「ごんぎつね」の学習では、仲間との交流を通して、一人で読んだときに気付かなかった表現に触れ、自分の考えを見直すことができました。



5年 福祉体験

5年生の「総合的な学習の時間」に、高齢化による身体の特徴を疑似体験しました。これまでの学習で高齢者の心身の特徴と生活について調べてきましたが、見えない、歩きにくい、疲れるなど様々な苦勞を疑似体験し、児童からは「体を動かすことがとても大変なことが分かった。」「お年寄りの方が大変そうだったら、親切にあげたい。」という感想がたくさんありました。お年寄りの方に思いを寄せ、自分にできることを考えるきっかけになる貴重な体験をすることが出来ました。



6年 運動会

蘇原第一小学校の運動会では、伝統的に6年生が「ソーラン節」を披露しています。これまで憧れをもって見てきたソーラン節の演技に自分たちが挑戦できる嬉しさもあり、昼休み等のわずかな時間を利用して自主練習等に取り組んできました。運動会当日は、自分たちでデザインした法被を着て、ダイナミックでキレイのある動きで、観客や下級生を魅了しました。



わかば ざくざくまつり

特別支援学級では、地域ボランティアの方にご協力をいただき、1年を通して稲作に取り組んでいます。田植えをする「どろべたまつり」から始まり、10月の「ざくざくまつり」では地域ボランティアの方から、コツを教えていただきながら、自分たちで鎌を使って稲刈りする体験をしました。年明けには地域ボランティアの方と「もちつき」をする予定です。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和5年度 春風号
第75巻4号 通巻479号

発行/令和6年1月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話/058(262)3257 FAX/058(262)3259
Eメール/info@gifu-pta.jp ホームページ/https://gifu-pta.jp
編集/岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷/サンメッセ株式会社